



DTX

drums

電子ドラム

DTX402K

DTX432K

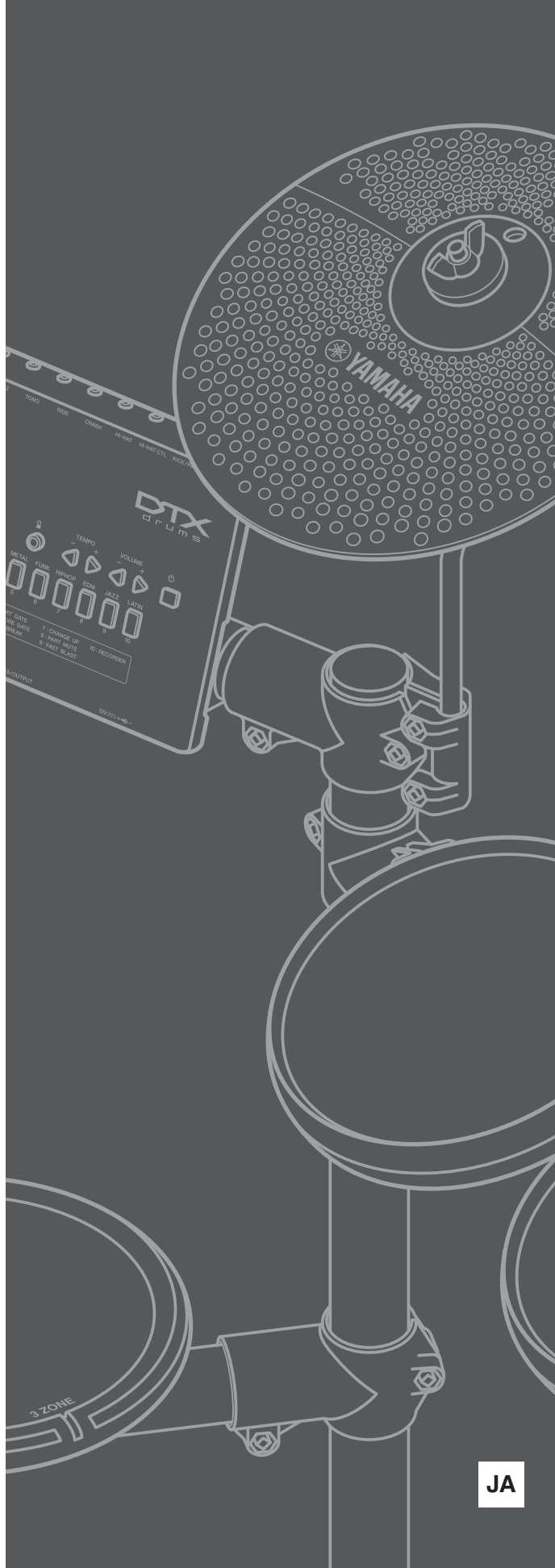
DTX452K

取扱説明書

兼保証書

保証規定は巻末にあります。

JA



目次

安全上のご注意	3
はじめに	7
取扱説明書について	7
冊子マニュアル	7
電子マニュアル(PDF形式)	7

準備編

最初にやっていただくこと	8
同梱品について	9
組み立てる	12
音を出すまでの準備	21
電源を準備する	21
ヘッドフォンやスピーカーをつなぐ	21
携帯用音楽プレーヤーなどをつなぐ	21
電源を入れる	22
電源を切る	22
オートパワーオフ(自動電源オフ)	22
本体の設定を初期の状態に戻す (ファクトリーリセット)	22
各部の名称と機能	23
フロントパネル	23
ボトムパネル	24
トップパネル	24

基本編

奏法について	25
スネアパッド	25
ハイハットシンバル	25
クラッシュシンバル	25
音楽ジャンルを選んで演奏する	26
音楽ジャンルを選ぶ	26
感度を調節する	26
ソングに合わせて演奏する	27
ソングの音量を調節する	27
ミュートされたドラムパートの音量を調節する	28
MIDIソングを本体に取り込む	28
クリック(メトロノーム)を使う	29
クリックを鳴らす/止める	29
クリックの音量を調節する	29
テンポの値を確認する	29
テンポを調節する	30
その他の設定をする	30

トレーニングモードで練習する	31
トレーニングを始める前に	31
トレーニングの詳細設定	31
トレーニングを終えた後に	31
他のトレーニングに切り替える	31
1. RHYTHM GATE(リズムゲート)	32
2. RHYTHM GATE(リズムゲート)	32
3. DYNAMIC GATE(ダイナミックゲート)	33
4. SONG PART GATE(ソングパートゲート)	34
5. SONG SCORE GATE(ソングスコアゲート)	35
6. MEASURE BREAK(メジャーブレイク)	36
7. CHANGE UP(チェンジアップ)	37
8. PART MUTE(パートミュート)	38
9. FAST BLAST(ファストブラスト)	39
10. RECORDER(レコーダー)	40

応用編

メニューモードで詳細な設定をする	41
メニューモードの基本操作	41
1 クリック設定	42
2 キット設定	43
3 MIDI設定	45
4 ハイハット設定	46
5 トリガー設定	48
6 トレーニング設定	51
7 その他設定	53
別売品を取り付ける	57
DTX402Kの場合	57
DTX432KおよびDTX452Kの場合	57
コンピューターに接続する	58
Yamaha Steinberg USB Driverを インストールする	58
MIDIリファレンスマニュアルについて	58

資料

困ったときは	59
データリスト	62
仕様	64
索引	65
保証とアフターサービス	66

安全上のご注意










ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

 	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
   	～しないでくださいという「禁止」を示します。
  	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源アダプターについて



警告



禁止

ヤマハ製電子楽器以外に使用しない。

電源アダプターは、ヤマハ製電子楽器専用です。他の用途には、ご使用にならないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。



禁止

電源アダプターは、室内専用のため屋外及び水滴のかかる環境では、使用しない。また、水の入った物、花瓶などを機器の上に置かない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。



注意



必ず実行

製品は電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに製品の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

楽器本体について

警告

電源 / 電源アダプター



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。
また、電源コードに重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。
誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの(64ページ)を使用する。
異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

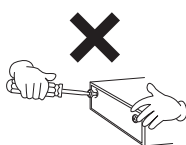
電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

分解禁止



禁止

この製品の内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末の修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上ろうそくなど火気のあるものを置かない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末の修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

注意

電源 / 電源アダプター



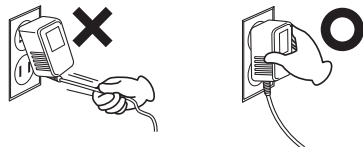
禁止

たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

組み立て



必ず実行

本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。
手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。



禁止

フットスイッチやフットペダルの下に、手や足を入れない。
挟まれてけがの原因となります。



電子ドラムラックには、アコースティックドラムを取り付けない。
クランプの破損や、ドラムの落下などで、けがをするおそれがあります。

禁止



必ず実行

クランプを調節する際、指に注意する。
指が挟まれてけがをするおそれがあります。



必ず実行

パイプの端面や内面およびネジの先端に注意する。
尖った部分などで指にけがをするおそれがあります。



禁止

ラックに腰かけたり踏み台にしない。
転倒したり壊れたりして、けがの原因となります。



必ず実行

シンバルホルダーの先端部分に注意する。
先端部分はとがっています。けがの原因になりますので、取り扱いにはじゅうぶん注意してください。



必ず実行

キックパッドやフットペダルに取り付けられている
すれ防止用スパーに注意する。
先端部分がとがっています。けがの原因になりますので、取り扱いにはじゅうぶん注意してください。



必ず実行

固定用のナットなどはしっかり締め付ける。
また、固定用ナット類をゆるめる際は急激にゆるめないでください。パッドが落下したり、ラック、パイプ、スタンドの部品の落下、転倒などにより、けがの原因となります。



必ず実行

接続ケーブルの引き回しに注意する。
足を掛けて転倒するなど、けがの原因となります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方がけがをしたりする原因になります。



禁止

直接床面に置かない。
床面(フローリング等)を傷つけたりする恐れがあります。カーペット等の上に設置してください。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続
ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様やほかの方が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず実行

指定のスタンド/ラックを使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。
本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。
感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。
聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



必ず実行

グリスの付着に注意する。
持ち運びや設置の際に、ペダルの潤滑油として塗布されているグリスが衣服に付着するおそれがあります。



禁止

本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

パネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様やほかの方がけがをしたりする原因になります。





禁止

大きな音量で長時間ヘッド
フォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

[] (スタンバイ / オン) スイッチを切った状態 (すべてのランプが消えている) でも微電流が流れています。[] (スタンバイ / オン) スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■製品の取り扱いに関する注意

- ・テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスのアプリと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためスマートデバイスの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- ・直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- ・本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。

■製品のお手入れに関する注意

- ・音源モジュールを手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- ・パッドをお手入れするときは、ベンジンやシンナー、アルコール類は使用しないでください。パッドを変色、変形させるおそれがあります。お手入れの際は、やわらかい布で乾拭きするか、水を含ませて固く絞った布を用いて汚れをふき取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤を含ませた布を固く絞って汚れを拭き取り、そのあとで水を含ませて固く絞った布を用いて洗剤を拭き取ってください。

お知らせ

■データの著作権に関するお願い

- ・ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- ・この製品に内蔵または同梱されたコンテンツは、ヤマハ(株)が著作権を有する、またはヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物です。製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出し、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することについては、著作権法等に基づき、許されていません。
※上記コンテンツとは、コンピュータープログラム、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVE データ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。
※上記コンテンツを使用して音楽制作や演奏を行ない、それらを録音や配布することについては、ヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

■取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- ・この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- ・Apple、iTunes、Mac、Macintosh、iPhone、iPad、iPod touch、Lightning は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- ・IOS は、米国およびその他の国における Cisco 社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- ・MIDI は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

はじめに

このたびはDTX402シリーズをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。本製品は豊富な練習機能を備えた電子ドラムキットです。この取扱説明書では、ドラムユーザーのために組立て方法や使い方を説明しています。

本製品のさまざまな機能を十分にご活用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。また、お読みになったあとも、大切に保管してください。

取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

準備編 : 本体の組み立て方や音を出すまでの準備方法について説明しています。

基本編 : 本体の基本的な使い方について説明しています。

応用編 : 本体をより詳細に使いこなす方法について説明しています。

資料 : 困ったときの解決方法をはじめ、各種資料を掲載しています。

電子マニュアル(PDF形式)



MIDIリファレンス

この楽器のMIDIに関する資料を掲載しています。



ドラム譜

この楽器に内蔵されたソングのドラム譜を掲載しています。



iPhone/iPad接続マニュアル

この楽器をiPhoneやiPadなどのスマートデバイスと接続する方法を説明しています。

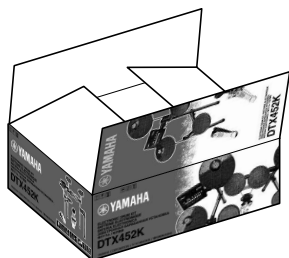
上記マニュアルは、ヤマハのウェブサイトからご覧いただけます。パソコンやスマートフォンなどからインターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」または「製品カテゴリーから検索」からモデル名を検索してください。

ヤマハ ダウンロード <https://jp.yamaha.com/support/>

最初にやっていただくこと

1

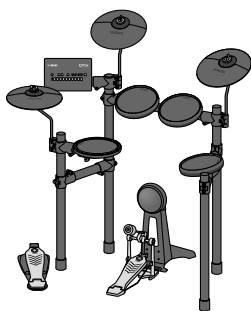
箱を開けて同梱品を確認する



2

組み立てる

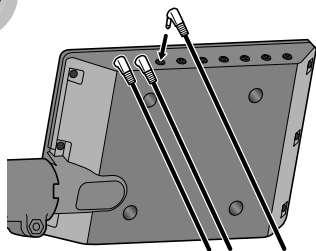
- 組み立てる手順は9ページ～20ページを参照。



3

接続する

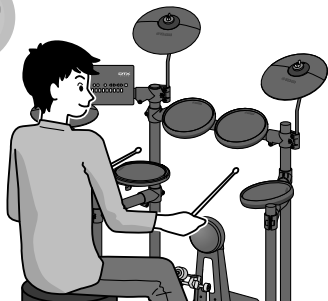
- パッドと音源モジュールをケーブルでつなぐ。
→20ページを参照。
- 電源アダプターを音源モジュールにつないで、電源を入れる。
→21ページを参照。



4

演奏する

- 基本的な使い方は、基本編 (25ページ～40ページ) を参照。
- さらに詳しい使い方は、応用編 (41ページ～56ページ) を参照。

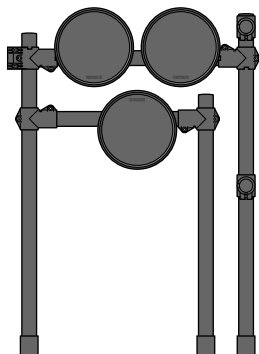


同梱品について

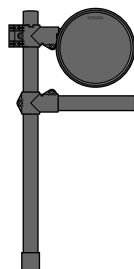
梱包箱を開けたら、すべての部品がそろっていることを確認してください。

DTX402K

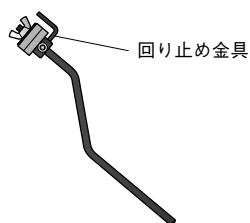
☐ ラック(大)



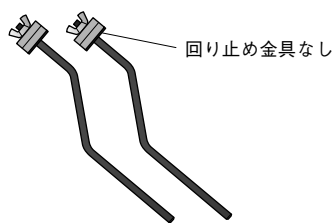
☐ ラック(小)



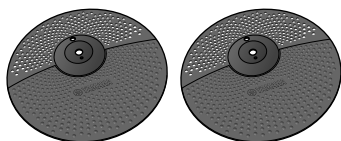
☐ ハイハットホルダー



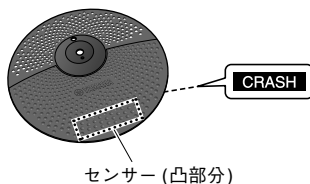
☐ シンバルホルダー (2本)



☐ シンバル/ハイハットパッド(2枚)



☐ クラッシュシンバルパッド



☐ 音源モジュール



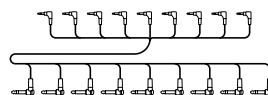
☐ ハイハット
コントローラー
HH40



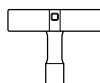
☐ キックユニット
KU100



☐ 9ch マルチケーブル



☐ チューニングキー



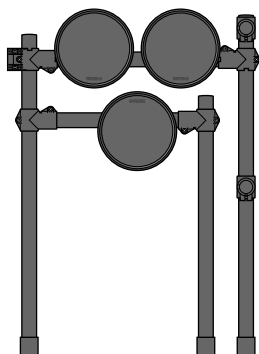
☐ ケーブルバンド(2本)



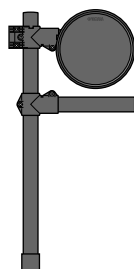
☐ 電源アダプター
☐ 取扱説明書(本書)
☐ 保証書

DTX432K

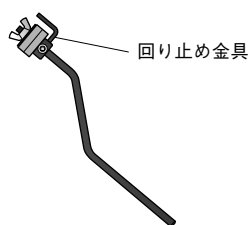
□ ラック(大)



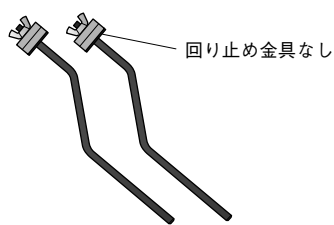
□ ラック(小)



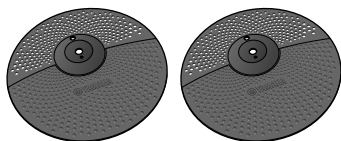
□ ハイハットホルダー



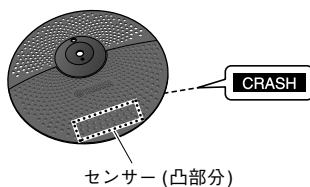
□ シンバルホルダー (2本)



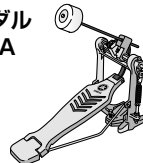
□ シンバル/ハイハットパッド(2枚)



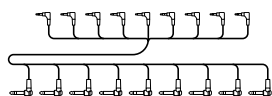
□ クラッシュシンバルパッド



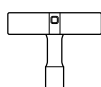
□ 音源モジュール

□ ハイハットコントローラー
HH65□ キックパッド
KP65□ フットペダル
FP6110A

□ 9chマルチケーブル



□ チューニングキー



□ ケーブルバンド(2本)



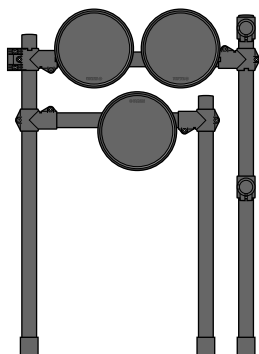
□ 電源アダプター

□ 取扱説明書(本書)

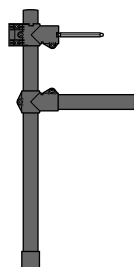
□ 保証書

DTX452K

□ ラック(大)



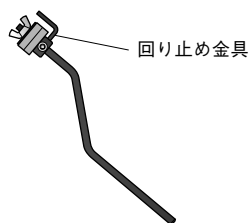
□ ラック(小)



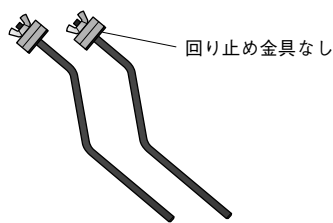
□ スネアパッドTP70S



□ ハイハットホルダー



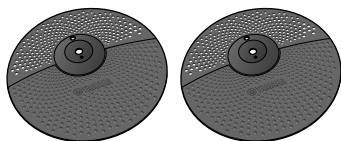
□ シンバルホルダー(2本)



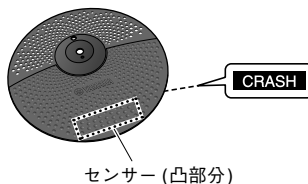
□ ウイングボルトS



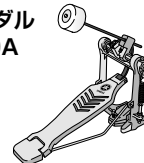
□ シンバル/ハイハットパッド(2枚)



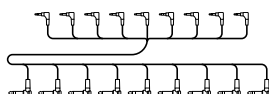
□ クラッシュシンバルパッド



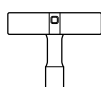
□ 音源モジュール

□ ハイハットコントローラー
HH65□ キックパッド
KP65□ フットペダル
FP6110A

□ 9chマルチケーブル



□ チューニングキー



□ ケーブルバンド(2本)



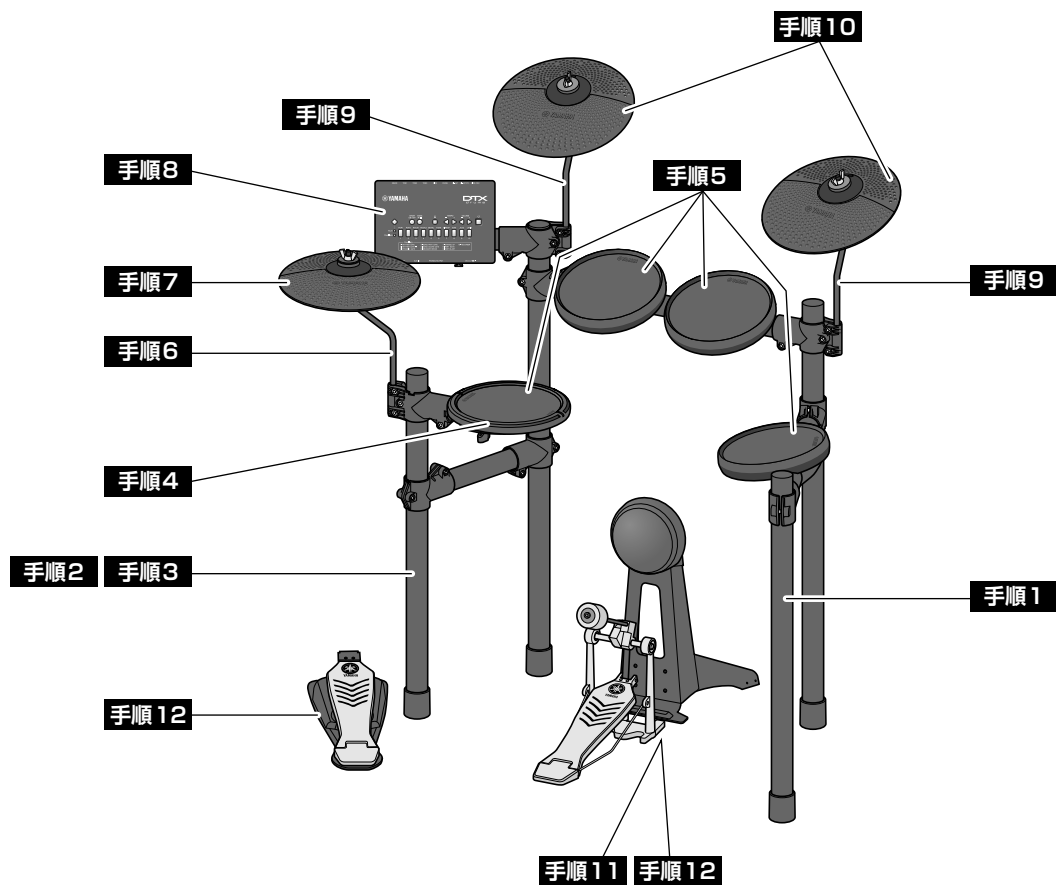
□ 電源アダプター

□ 取扱説明書(本書)

□ 保証書

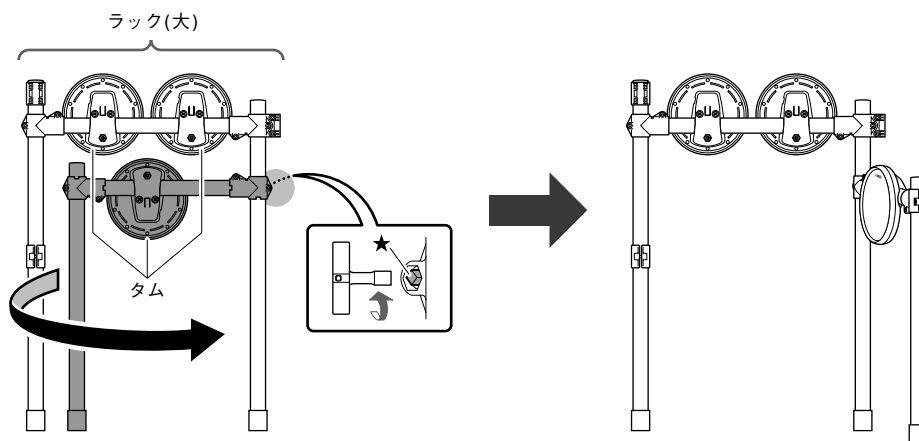
組み立てる

組み立てイメージ

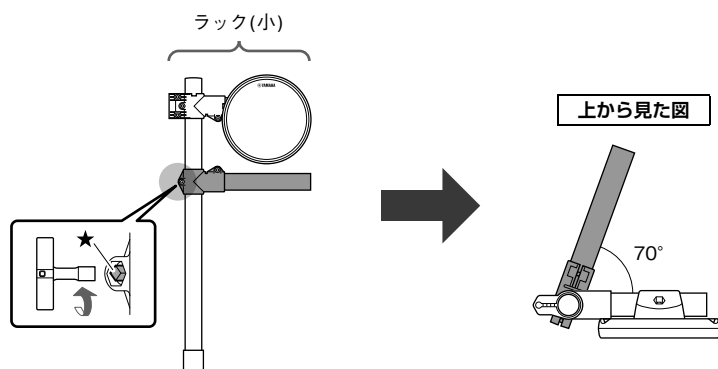


⚠ 注意

- 硬くて平らな場所で組み立ててください。
- 部品を間違えたり、向きを間違えないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- キーボルトは各ユニット固定後、ゆるみがないようにきつく締め直してください。
- 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

手順1 ラック(大)を開いて立てる

1. ラック(大)を、図のようにタムの裏側が見えるように立てます。
2. キーボルト(図★)を、チューニングキーでゆるめます。
3. 短いパイプを手前に広げます。

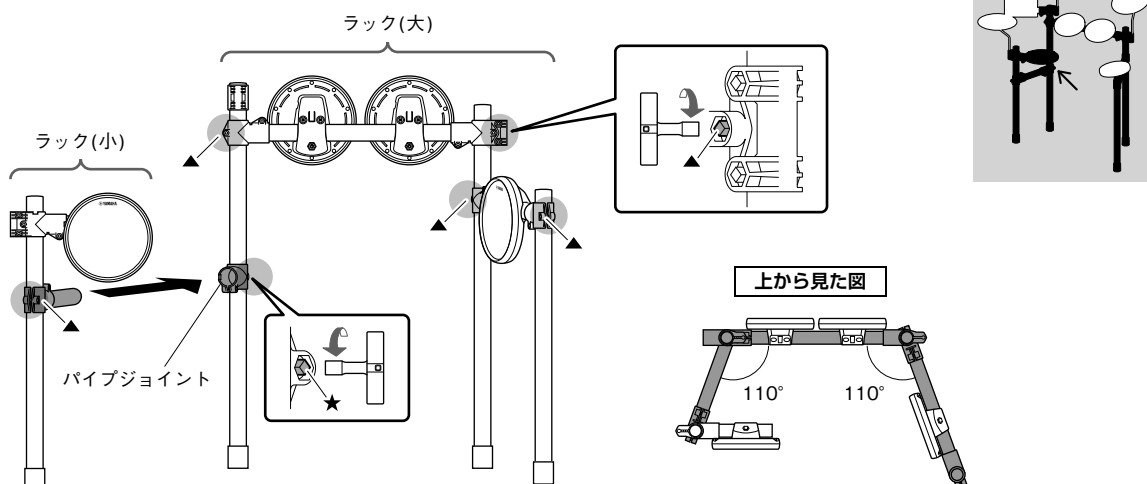
手順2 ラック(小)を開いて立てる

1. ラック(小)を、図のように立てて持ちます。

DTX452Kのラック(小)にはスネアパッドが付いていません。このあとの手順で取り付けます。

2. キーボルト(図★)をゆるめます。
3. 下側のパイプを、[上から見た図]のように約70° 広げます。

手順3 ラックを組み立てる



1. ラック(大)のキーボルト(図★)をゆるめ、ラック(小)を差しやすいように、パイプジョイントの向きを変えます。
2. 1. のパイプジョイントに、ラック(小)のパイプを差し込みます。

DTX452Kのラック(小)にはスネアパッドが付いていません。このあとの手順で取り付けます。

3. ラックの左右のパイプを[上から見た図]のような角度で広げます。

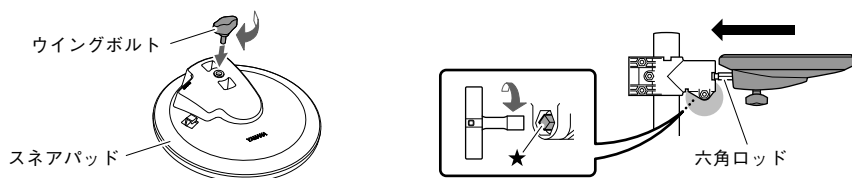
⚠ 注意

ラックの左右のパイプを広げすぎると、ラックが転倒してけがの原因になります。

4. 各キーボルト(図★1箇所と▲5箇所)をしっかり締めて、ラック全体を固定します。

NOTE 各パッドの角度はあとの手順で調節します。

手順4 DTX452Kのみ スネアパッドを取り付ける



1. スネアパッドとウイングボルトを用意し、ウイングボルトを軽く締めておきます。(5～6回程度)
2. ラックの六角ロッドに、スネアパッドを根元まで差し込み、ウイングボルトを締めてスネアパッドを固定します。
3. スネアパッドの角度はキーボルト(図★)で調節します。調節が終わったらキーボルトを締めて固定します。

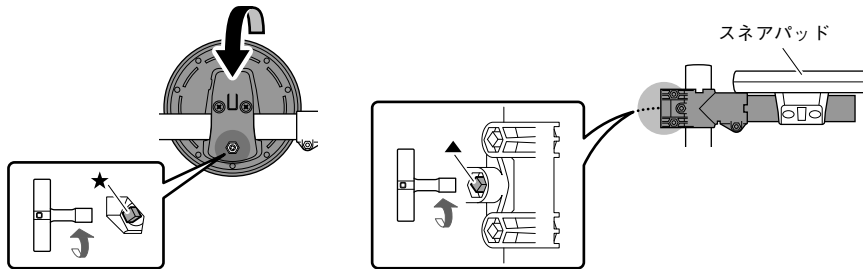
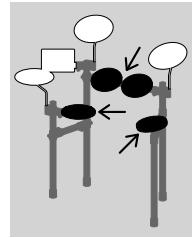
手順5 パッドの角度を調節する

DTX402KとDTX432K

この手順は、4枚のパッドに共通です。

DTX452K

この手順は、3枚のタムパッドに共通です。スネアパッドの角度は、**手順4**の方法で調節してください。

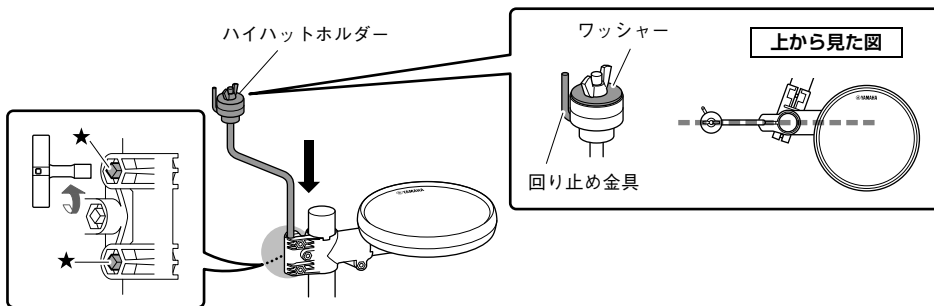


1. 各パッドのキーボルト(図★)をゆるめます。
2. パッドを回転させ、叩きやすい角度に調節します。(角度は12ページの組み立てイメージを参考にしてください)

NOTE スネアは、スネアを支えるパイプジョイントの角度もキーボルト(図▲)で調節できます。

3. 各キーボルトを締めてパッドを固定します。

手順6 ハイハットホルダーを取り付ける



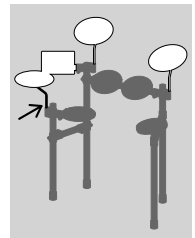
1. スネアの奥にあるキーボルト(図★)2箇所をゆるめます。
2. ハイハットホルダーを用意し、図のように差し込みます。

ハイハットホルダーは、他のシンバルホルダー2本と形状が違います。間違えないようにしてください。

ハイハットホルダーの特徴：ワッシャーがある、回り止め金具がある

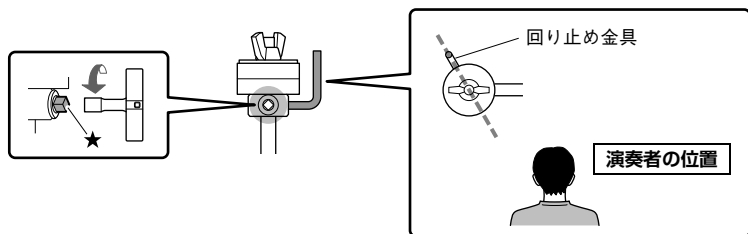
- ・ 差し込む深さは、ハイハットホルダーの下先端部が少し見える程度です。
- ・ ハイハットホルダーを取り付ける向きは、[上から見た図]のように、スネアのパイプと水平にしてください。

3. キーボルト(図★)2箇所を締めてハイハットホルダーを固定します。



手順7 ハイハットパッドを取り付ける

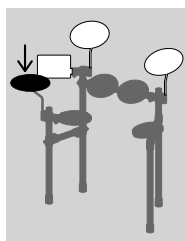
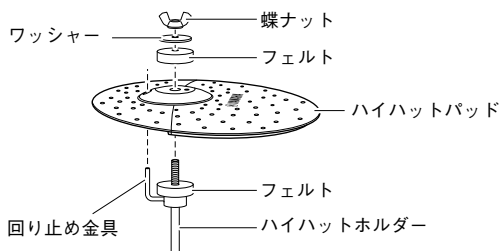
● ハイハットの回り止め金具の向きを調節する



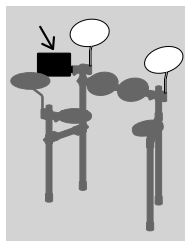
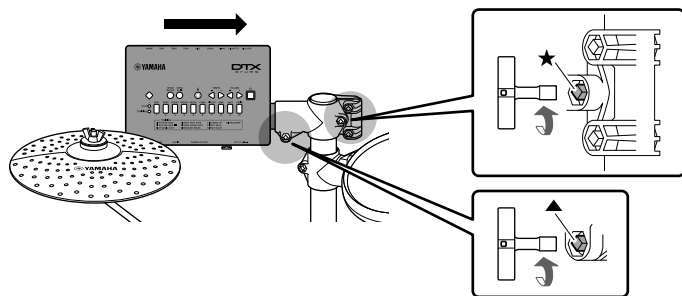
1. ハイハットホルダーの上端部にある回り止め金具のキーボルト(図★)をゆるめます。
2. 図のように、回り止め金具が演奏者の位置からみて奥になるように向きを調節します。
3. キーボルト(図★)を締めて回り止め金具を固定します。

● ハイハットパッドを取り付ける

1. ハイハットホルダーから、蝶ナットとワッシャー、上のフェルト1個を外します。(下のフェルトはハイハットホルダーから外しません)
2. ハイハットパッド(※裏に「CRASH」のシールがないパッド)を1枚用意し、ハイハットパッドの大小2箇所の穴にハイハットホルダーと回り止め金具を両方通します。
3. 1. で外したフェルトをハイハットパッドの上に取り付けます。
4. 1. で外したワッシャーをフェルトの上に取り付けます。
5. 蝶ナットを締めてハイハットパッドを固定します。

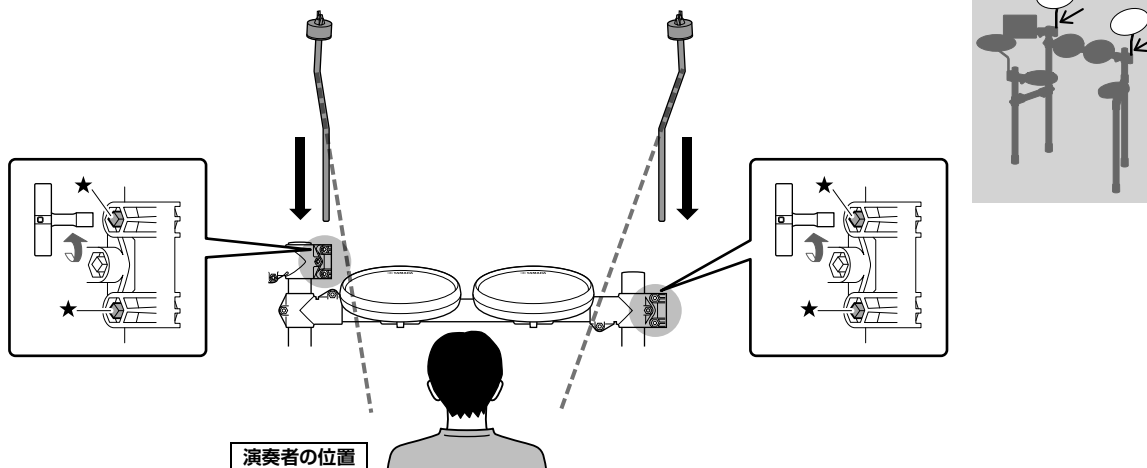


手順8 音源モジュールを取り付ける



1. ラック左奥のパイプジョイントのキーボルト(図★)をゆるめ、音源モジュールを差しやすいように、パイプジョイントの向きを変えます。
2. キーボルト(図▲)をゆるめ、音源モジュールを根元まで差し込みます。
3. キーボルト(図★と▲)を締めて、音源モジュールを見やすい角度で固定します。

手順9 シンバルホルダーを取り付ける



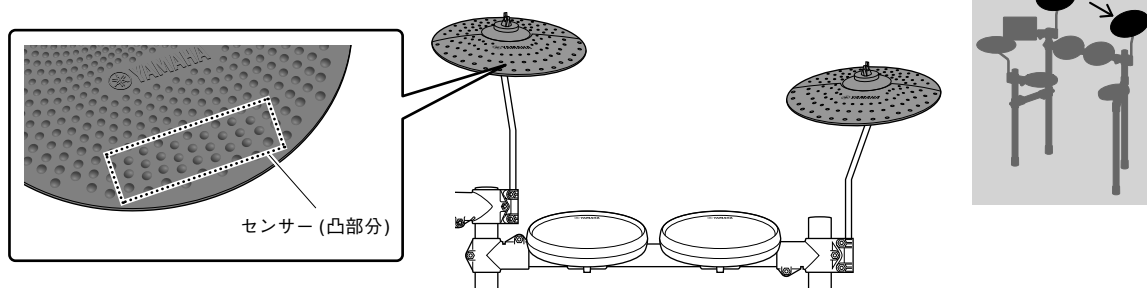
1. タム1、2の両端にあるキーボルト(図★)4箇所をゆるめます。
2. シンバルホルダーを用意し、左右2箇所、図のように差し込み、向きを調節します。

NOTE シンバルホルダー 2本は同じ部品です。

- ・ 差し込む深さは、シンバルホルダーの下先端部がほんの少し見える程度です。
- ・ シンバルホルダーの向きは、図のように、演奏者から見てホルダーが奥に曲がるようにしてください。

3. キーボルト(図★)4箇所を締めてシンバルホルダーを固定します。

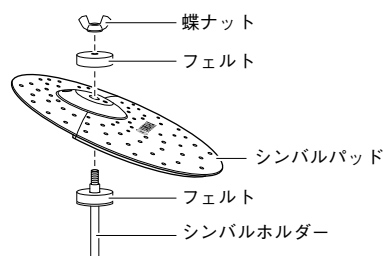
手順10 シンバルパッドを取り付ける



クラッシュシンバルパッドを**左側**に、シンバルパッド(ハイハットに使用したものと同一部品)を**右側**に取り付けます。間違えないようにしてください。

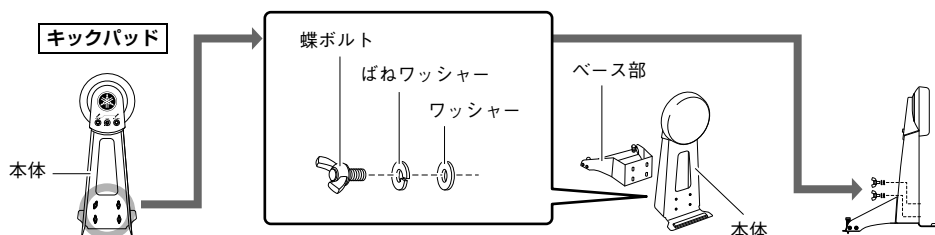
クラッシュシンバルの特徴：裏に「CRASH」のシールがある、表面の凹デザインが一部凸になっている。

1. シンバルホルダーから、蝶ナットと上側のフェルト1個を外します。
(下側のフェルトはシンバルホルダーから外しません)
2. シンバルパッドの穴にシンバルホルダーを通します。
3. 1. で外したフェルトをシンバルパッドの上に取り付けます。
4. 蝶ナットを締めてシンバルパッドを固定します。

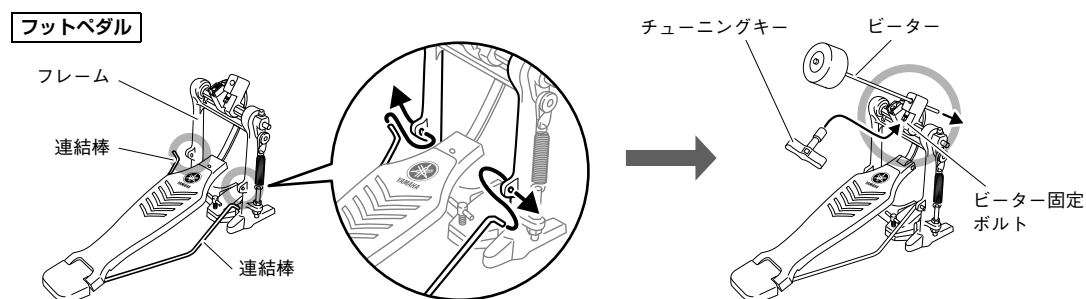


手順 11 DTX432KおよびDTX452Kのみ キックを組み立てる

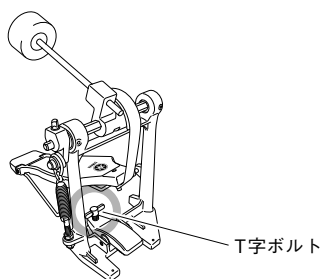
1. キックパッドを用意し、本体から蝶ボルト、ばねワッシャー、ワッシャーをいったん外し、4組それぞれ外したままの状態近くで置きます。
2. 図のようにベース部を本体に組み付け、1.で外した蝶ボルト、ばねワッシャー、ワッシャーをベース部側から取り付けて固定します。



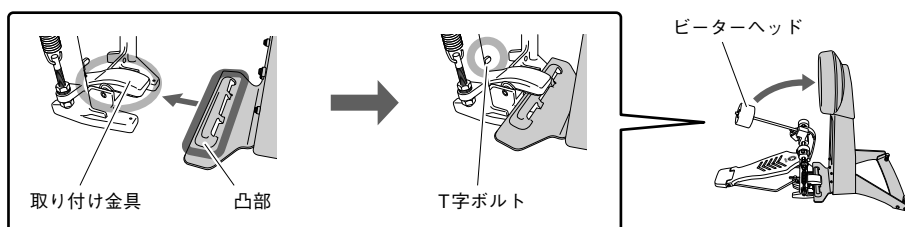
3. フットペダルを用意し、連結棒をフレームの穴に下図のように差し込みます。
4. ビーターの先端が後ろから15mm程度出る位置まで差し込み、チューニングキーでビーター固定ボルトを締めます。



5. フットペダルのT字ボルトを左に回してゆるめます。



6. フットペダルの取り付け金具にキックパッド前面下の凸部をはさみます。
7. T字ボルトを右に回して固定します。
8. ペダルを踏んでビーターヘッドがキックパッドの円のほぼ中心に当たるかどうか確認します。必要があればビーターの長さや左右の位置を調節します。

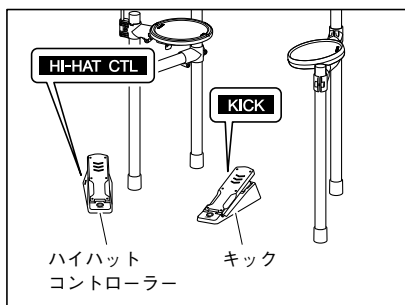


手順12 ハイハットコントローラーとキックを配置する

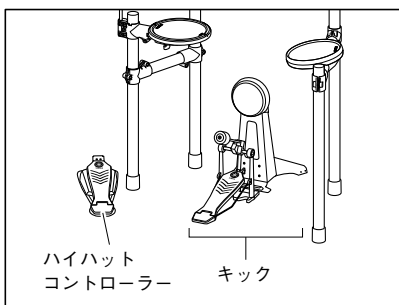
図を参考に、ハイハットコントローラーとキックを配置します。

【重要】

DTX402Kはハイハットコントローラーとキックが似ています。ペダルの側面に貼られているシールをご覧のうえ、間違えないように配置してください。



DTX402K



DTX432K、DTX452K

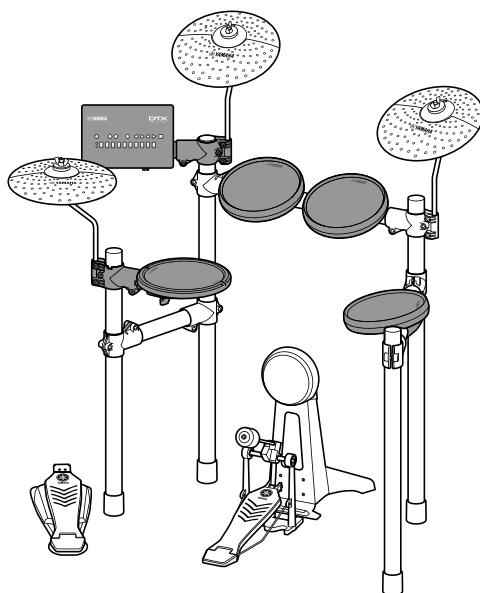


手順13 パッドと音源モジュールの位置を微調節する

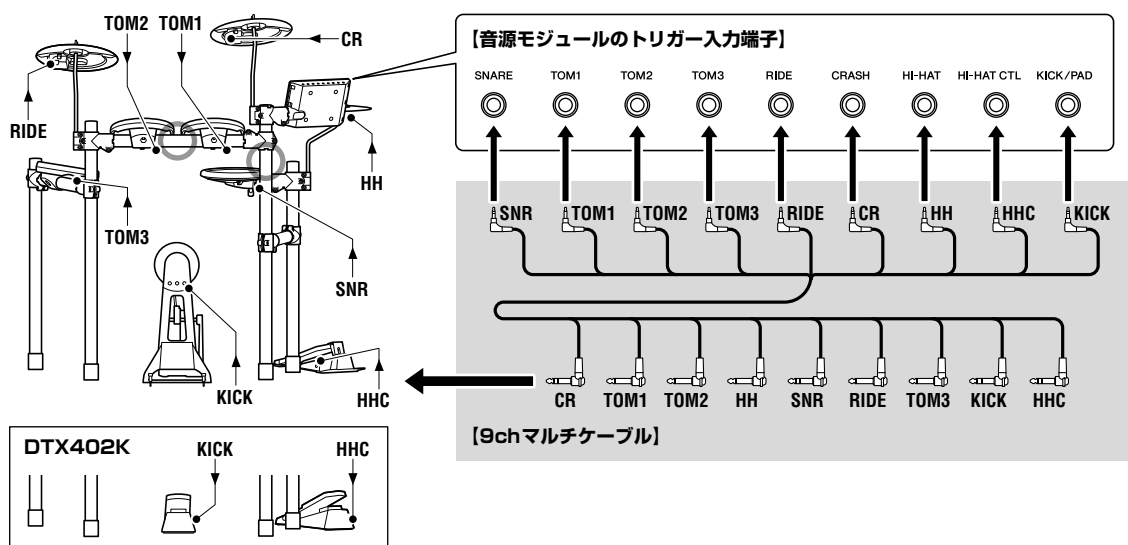
椅子(別売)に座ってみて、パッドや音源モジュールをお好みの位置に調節します。

⚠ 注意

- ゆるめたキーボルトは必ずしっかりと締め直してください。
- すべてのキーボルトにゆるみがないか、再度確認してください。



手順 14 パッドと音源モジュールを接続する



1. 9chマルチケーブルのミニプラグ(細いほう)を、音源モジュールのトリガー入力端子(SNARE～KICK/PAD)に接続します。

NOTE プラグにはパッド名が書かれたシールが貼ってあります。各プラグを正しい端子に接続してください。

2. 9chマルチケーブルの標準プラグ(太いほう)を、各パッドの端子に接続します。

NOTE DTX432KおよびDTX452KのキックパッドKP65は、OUT ► DTX端子に接続します。PAD ► IN端子に接続すると音が出ません。

3. スネアパッド、タムパッド、シンバル/ハイハットパッドは、ケーブルが抜け落ちないようにコードフックに巻きつけて固定します。

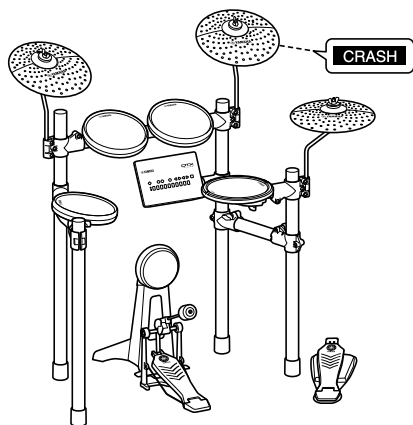
注記 コードフックに巻きつける際、ケーブルを極端に折り曲げないでください。ケーブルの断線の原因となります。

4. ケーブルバンドを使い、上図の○位置を参考にケーブルをラックに沿わせて固定します。

以上で組み立ては完了です！

左利き用のセットアップ

組み立てイメージ

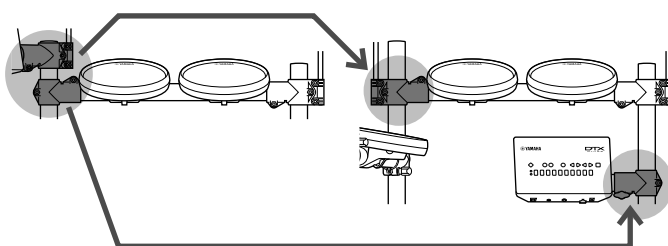


組み立てイメージを参考に組み立てます。

パイプジョイント2つを、右利きとは別の位置に取り付けます。


右利き用

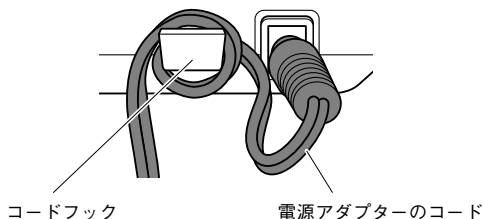
左利き用



音を出すまでの準備

電源を準備する

1. 本体の電源が切れている(ランプがすべて消えている)ことを確認してください。
2. 電源アダプターのDCプラグをボトムパネルの [12V ] 端子に接続します。
3. 電源アダプターのコードをコードフックに巻きつけて固定します。



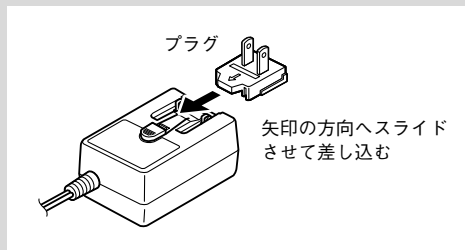
⚠ 注意

コードフックに巻きつけるとき、電源アダプターのコードを極端に折り曲げないでください。コードの断線や発火の原因となります。

4. 電源アダプターのACプラグを家庭用(AC100V)コンセントに接続します。

⚠ 警告

- 電源アダプターは、必ず指定のもの(64ページ)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねることがございますので、十分にご注意ください。
- プラグが外れるタイプの電源アダプターは、必ずプラグを装着した状態で使用、または保管してください。プラグ部分だけをコンセントに差し込むと、感電や火災の原因になります。
- プラグが外れた場合は、内部に金属部分に触れないよう注意して、カチッと音がするまで完全に差し込んでください。また異物が入らないようご注意ください。感電やショート、故障の原因になります。



ヘッドフォンやスピーカーをつなぐ

本体にはスピーカーが内蔵されていません。音を出すためには、ヘッドフォンやモニタースピーカーを [PHONES/OUTPUT] 端子(標準ステレオフォンジャック)に接続してください。音量はフロントパネルの [VOLUME] ボタンで調節します。

NOTE

[PHONES/OUTPUT] 端子はステレオジャックです。モノラルフォン(φ6.3)ケーブルをお使いの場合は、メニューモードの“ステレオ/モノラル”(55ページ)で出力をモノラルに切り替えてください。

⚠ 注意

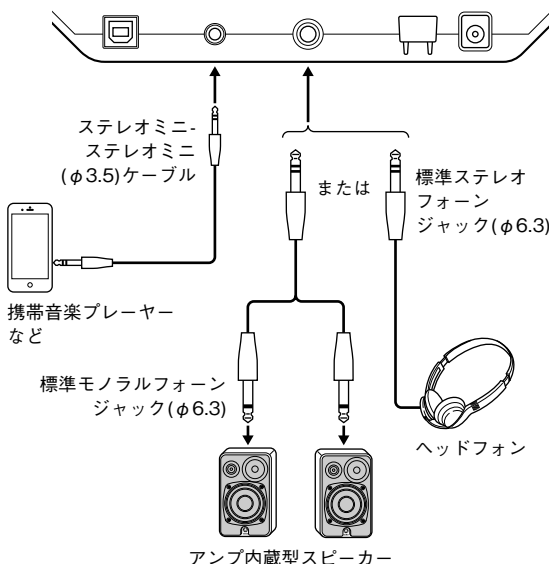
ヘッドフォンをご使用の場合は、大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

携帯用音楽プレーヤーなどをつなぐ

本体の [AUX IN] (外部入力) 端子(ステレオミニジャック)に携帯用音楽プレーヤーなどを接続することができます。好きな曲に合わせて演奏するときに便利です。

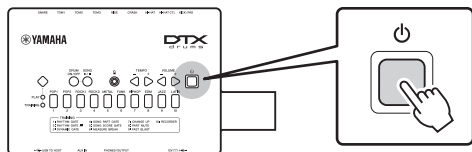
【注 記】

- 接続にはそれぞれの機器の端子形状に適合したプラグを持つケーブルをお使いください。
- 接続の前に、機器のボリュームが最小になっていることを確認してください。
- 本体との音量バランスは、接続した機器側の音量調節で行なってください。



電源を入れる

1. アンプ内蔵スピーカーなどの外部オーディオ機器を接続している場合は、外部オーディオ機器の音量がゼロになっていることを確認します。
2. [⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押します。本体のランプが点灯し、電源が入ります。



NOTE 電源を入れる前にハイハットコントローラーを接続してください。また電源オン時は、ハイハットコントローラーを踏まないでください。ペダルの自動判別がうまく作動せずに、キックの音が出にくくなる場合があります。

電源を切る

1. 外部オーディオ機器を接続している場合は、外部オーディオ機器の音量がゼロになっていることを確認します。
2. [⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押します。本体のランプが消灯し、電源が切れます。



注記 電源オフ時に本体の設定は自動的に保存されます。本体のランプが完全に消えるまで電源アダプターを抜かないでください。

オートパワーオフ(自動電源オフ)

オートパワーオフとは、本体が一定時間操作されないと自動的に電源が切れる機能です。電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐことができます。

NOTE 電源オフ時に、本体の設定は自動的に保存されます。

● オートパワーオフの設定

電源が自動的に切れるまでの時間は変更できます。操作方法は、メニューモードの“オートパワーオフ時間”(54ページ)をご覧ください。

- 注記**
- ・ 本体の状態によっては、一定時間操作せずにオートパワーオフの設定時間が経過しても電源が切れない場合があります。使用後は、手で本体の電源を切ってください。
 - ・ 外部オーディオ機器を本体に接続した状態で、一定時間本体を操作しない場合は、外部オーディオ機器の音量をゼロにしておくことをお勧めします。本体の電源が自動的に切れないようにするには、オートパワーオフを解除してください。

NOTE

- ・ オートパワーオフの設定時間はおよその目安です。
- ・ 初期の状態では、オートパワーオフは15分に設定されています。

● オートパワーオフの簡単解除

数字キー [1] を押しながら電源を入れると、オートパワーオフ機能が解除されます。この場合、解除の設定は自動的に保存されます。

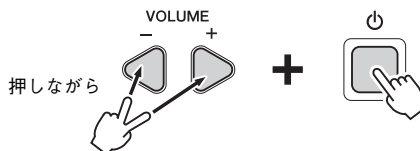


本体の設定を初期の状態に戻す (ファクトリーリセット)

本体には、はじめからさまざまなキット、ソングなどが設定されています。ファクトリーリセットを実行すれば、これらを誤って書き換えてしまった場合でも、本体の設定を初期の状態に戻すことができます。

注記 ファクトリーリセットを実行すると、設定したすべての内容は消去されます。よく確認してから実行してください。

1. [⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して、電源を切ります。
2. VOLUME[+]ボタンとVOLUME[-]ボタンを押しながら、電源を入れます。

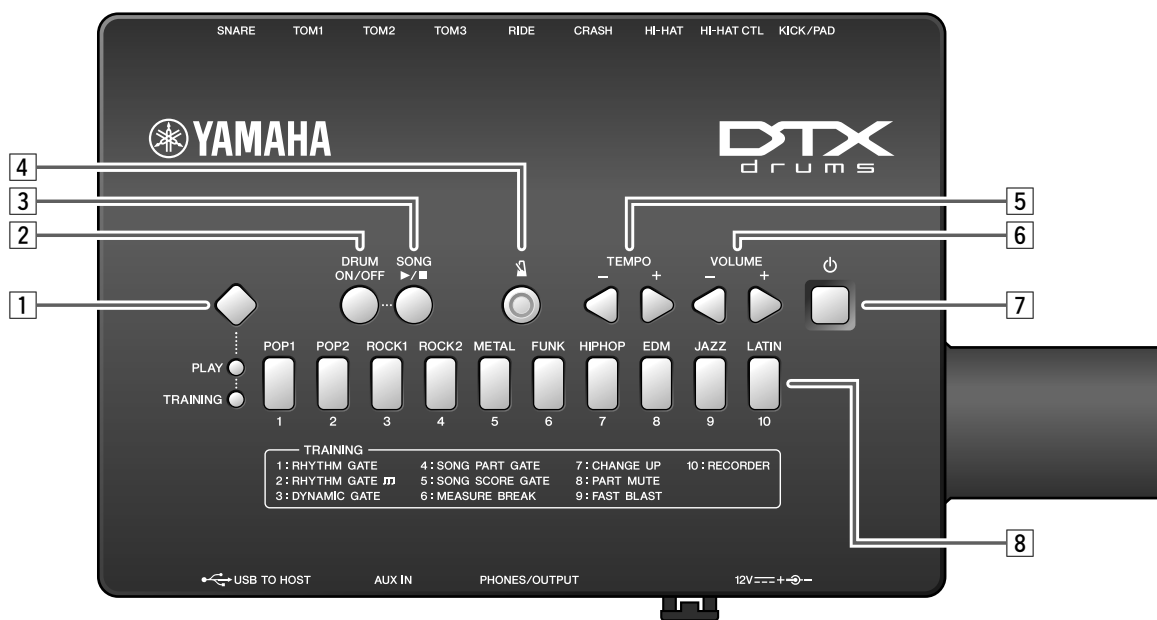


本体のランプが点滅し、ファクトリーリセットが実行されます。

各部の名称と機能

フロントパネル

■音源モジュール



① モードスイッチ

- ・プレイモードとトレーニングモードを切り替えます。(26、31ページ)
- ・長押しすると、メニューモードに切り替わります。(41ページ)

② [DRUM ON/OFF] (ドラムオン/オフ) ボタン (28ページ)

ソングのドラムパートを消音/消音解除するときに使います。

③ [▶/■] (スタート/ストップ) ボタン

- ・ソングの再生/停止を行ないます。(27ページ)
- ・トレーニングモードで練習のスタート/ストップを行ないます。(31ページ)

④ [🔊] (クリック) ボタン (29ページ)

- ・クリック(メトロノーム)のスタート/ストップを行ないます。
- ・トレーニングモードで練習のスタート/ストップを行ないます。

⑤ [TEMPO] (テンポ) ボタン (30ページ)

ソングやクリックのテンポの増減を行ないます。

[+] ボタンで1ずつ速くなり、[-] ボタンで1ずつ遅くなります。

※ メニューモードでは、設定値の増減に使います。

⑥ [VOLUME] (ボリューム) ボタン (26ページ)

本体音量を調整します。[+] ボタンを押すたびに大きくなり、[-] ボタンを押すたびに小さくなります。

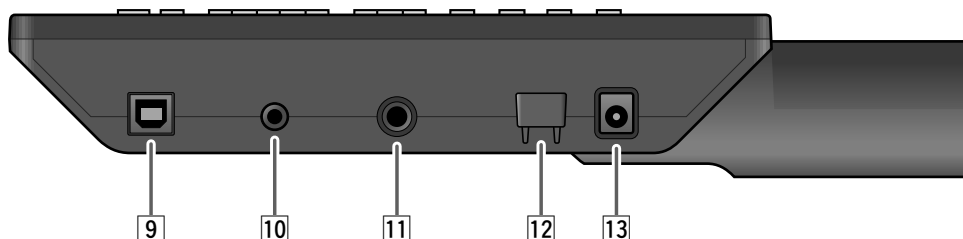
⑦ [🔌] (スタンバイ/オン) スイッチ (22ページ)

本体のオフ/オンのスイッチです。

⑧ 数字キー

- ・音楽ジャンルやトレーニングを選びます。(27、31ページ)
- ・テンポの値を入力します。(30ページ)
- ・メニューモードで設定項目を選びます。(41ページ)
- ・メニューモードで設定値を入力します。(41ページ)

ボトムパネル



9 [USB TO HOST] 端子 (58ページ)

コンピューターやiPhone、iPadなどのスマートデバイスと接続して、デジタル信号(オーディオやMIDI)の送受信をします。

iPhoneやiPadを接続する場合は接続用のパーツが必要です。詳しくは電子マニュアル「iPhone/iPad接続マニュアル」(PDF)をご参照ください。

10 [AUX IN] (外部入力) 端子 (21ページ)

本体へ外部オーディオ機器からの音声を入力する端子(ステレオミニジャック)です。携帯音楽プレーヤーを接続すれば、プレーヤーの音楽に合わせて演奏できます。

11 [PHONES/OUTPUT] 端子 (21ページ)

ヘッドフォンおよび、外部アンプやミキサーなどと接続します。ステレオ標準ジャックです。

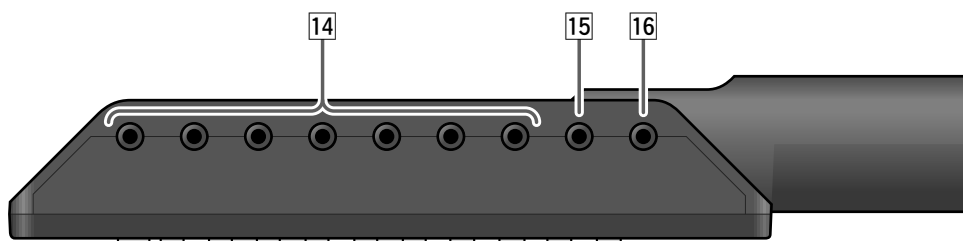
12 コードフック (21ページ)

電源アダプターのコードが抜けないように、このフックでプラグ付近のコードを引っ掛けて固定します。

13 [12V + -] 端子 (21ページ)

付属の電源アダプターを接続します。

トップパネル



14 トリガー入力端子 (20ページ)

スネアパッド、タムパッド、シンバルパッドを接続する端子です。

15 HI-HAT CTL (ハイハットコントロール) 端子 (20ページ)

ハイハットコントローラーを接続する端子です。

16 KICK/PAD 端子 (20ページ)

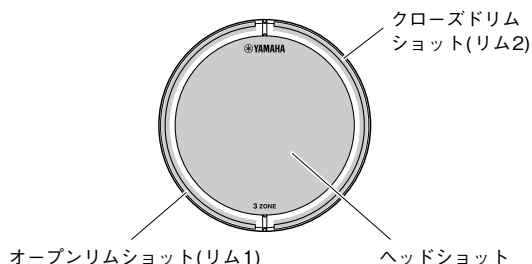
キックパッドを接続する端子です。

KP65を接続した場合は、KP65のPAD ▶ IN端子を使って、PCY95ATなどのパッドを増設できます(57ページ)。

奏法について

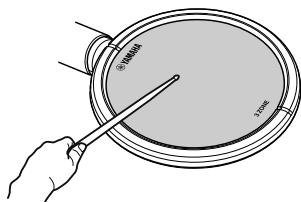
スネアパッド

DTX452KのスネアパッドTP70Sでは、アコースティックのスネアドラムと同じように3種類(ヘッド、オープンリム、クローズドリム)の叩き方ができます。



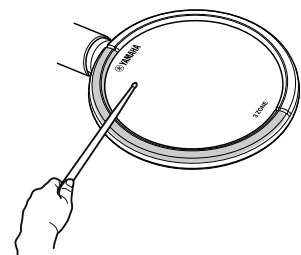
● ヘッドショット

ヘッドを叩きます。



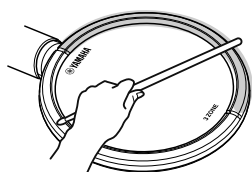
● オープンリムショット

オープン側のリムを叩きます。



● クローズドリムショット(クロススティック)

クローズド側のリムを叩きます。



ハイハットシンバル

● オープン/クローズ

- ・ハイハットコントローラーのペダルを踏まない状態でハイハットパッドを叩くと、ハイハットオープンの音が出ます。
- ・ハイハットコントローラーのペダルを踏んだ状態でハイハットパッドを叩くと、ハイハットクローズの音が出ます。
- ・DTX432KとDTX452Kのハイハットコントローラー HH65は、ペダルの踏み具合によってオープンからクローズまで音色が変化します。

● フットクローズ

ハイハットパッドを叩かずにハイハットコントローラーを踏み込むと、フットクローズの音が出ます。

NOTE DTX402Kのハイハットコントローラー HH40は、ペダルを強く踏んでも音の強さ(ペロシティー)は固定です。固定値を調節するには、メニューモードの“フットクローズのペロシティー”(47ページ)をご覧ください。

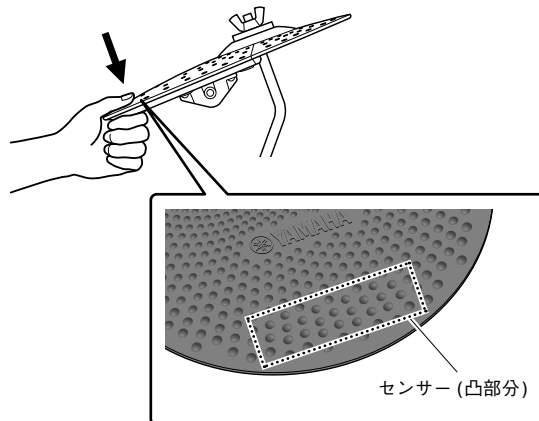
● ハイハットスブラッシュ

ハイハットコントローラーのペダルを瞬間的に踏んですぐ放すと、ハイハットスブラッシュの音が出ます。

クラッシュシンバル

● チョーク奏法

エッジ部をつまんで音を止めることができます。センサー部分を手でつまんでください。

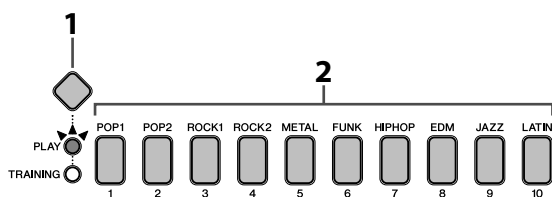


音楽ジャンルを選んで演奏する

音楽ジャンルを選ぶと、そのジャンルに合ったドラムやパーカッションの音色(「キット」と呼びます)とソングに自動的に切り替わります。お好みのジャンルで、ドラムを演奏してみましょう。

音楽ジャンルを選ぶ

1. モードスイッチを押して、「PLAY」を点灯させます(プレイモード)。
2. 数字キー [1]～[10]を押して、お好みの音楽ジャンルを選びます。
選択した数字キーが点灯して、そのジャンルに合ったドラムやパーカッションの音色に切り替わります。



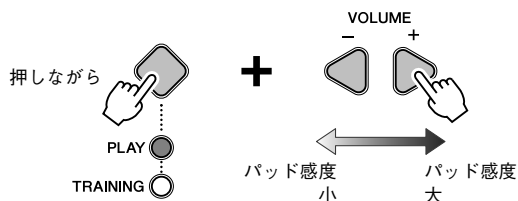
3. パッドを叩いて演奏してみましょう。

NOTE 10種類のジャンルの詳しい内容は、データリスト(62ページ)をご覧ください。

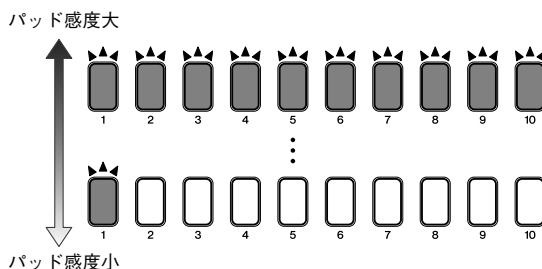
感度を調節する

ドラムパッドを叩く強さに対する鳴る音の音量を10段階で調節できます。お好みの感度に調節しましょう。

モードスイッチを押しながら **VOLUME[+]** ボタンまたは **VOLUME[-]** ボタンを押します。



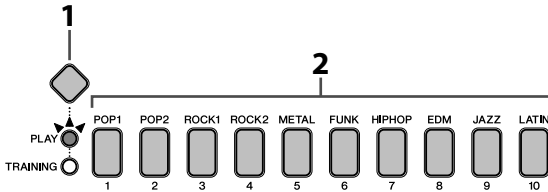
- **VOLUME[+]** ボタンを押すごとに、パッドの感度は上がります。したがって、弱く叩いても大きな音が出やすくなります。
- **VOLUME[-]** ボタンを押すごとに、パッドの感度は下がります。したがって、強く叩かないと大きな音が出にくくなります。



- NOTE**
- ここで設定する感度は、10種類のジャンルごとに選ばれるドラムキットに共通です。
 - 各パッドの感度を個別に設定したいときは、メニューモードの「トリガー設定」(48ページ)をご覧ください。

ソングに合わせて演奏する

1. **モードスイッチ**を押して、「PLAY」を点灯させます。
2. **数字キー** [1]～[10]を押して、お好みの音楽ジャンルを選びます。
選択した数字キーが点灯して、そのジャンルのソングに切り替わります。



NOTE 各ソングのドラム譜(PDF)は、以下のサイトからダウンロードできます。

<https://jp.yamaha.com/support/>

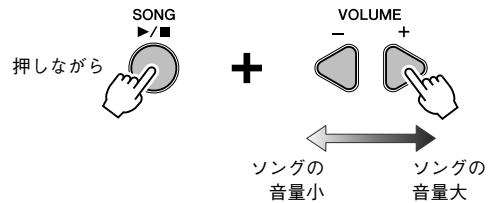
3. **[▶/■]** ボタンを押してソングを再生します。
4. ソングに合わせてドラムを演奏してみましょう。

NOTE ドラムパートをミュート(消音)して、ドラムパート以外の伴奏パートだけを再生させたいときは、[DRUM ON/OFF] ボタンを押します。もう一度押すと、ミュートが解除されます。

- 5. ソングを終了するには、もう一度[▶/■]ボタンを押します。**

ソングの音量を調節する

【▶/■】ボタンを押しながらVOLUME[+]ボタンまたはVOLUME[-]ボタンを押します。



- **VOLUME[+]ボタン**を押すごとに、ソングの音量は上がります。
- **VOLUME[-]ボタン**を押すごとに、ソングの音量は下がります。

NOTE ここで設定する音量は、10種類のジャンルごとに選ばれるソングに共通です。

ミュートされたドラムパートの音量を調節する

ソングの再生中に[DRUM ON/OFF] ボタンを押すと、お手本のドラム音量はミュート(消音)されます。ミュートされたお手本のドラムの音量は調節ができるので、お手本の演奏をかすかに鳴らしながら練習できます。

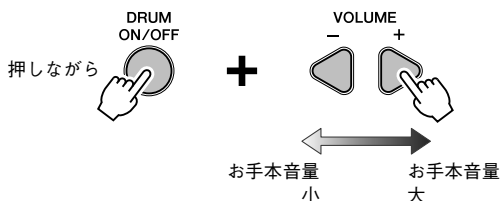
1. [▶/■] ボタンを押して、ソングを再生させます。



2. [DRUM ON/OFF] ボタンを押して、ドラムパートをミュートします。
ボタンが消灯しているときがミュート状態です。点灯しているときはミュートされていません。



3. [DRUM ON/OFF] ボタンを押しながら VOLUME [＋] ボタンまたは VOLUME [－] ボタンを押します。



- VOLUME[＋] ボタンを押すごとに、ミュートされたドラム音量は上がります。
- VOLUME[－] ボタンを押すごとに、ミュートされたドラム音量は下がります。

もう一度[DRUM ON/OFF] ボタンを押すとミュートは解除され、ドラムパートは通常の音量に戻ります。

MIDIソングを本体に取り込む

対応のアプリケーションを使うことにより、本体にMIDIソング(1曲)を取り込むことができます。

対応のスマートデバイスやアプリケーションについて詳しくは、ウェブサイト上の下記ページでご確認ください。接続のしかたについて詳しくは、ウェブサイト上の「iPhone/iPad接続マニュアル」(PDF)をご参照ください。

<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

NOTE

- 取り込んだMIDIソングを削除するには、メニューモードの“ソングの削除”(55ページ)をご覧ください。
- スマートデバイスのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため、スマートデバイスの機内モードをオンにしてからWi-Fiをオンしてお使いいただくことをおすすめします。

注記

スマートデバイスを不安定な場所に置かないでください。スマートデバイスが落下して破損するおそれがあります。

クリック(メトロノーム)を使う

クリック(メトロノーム)を鳴らしながらパッドを叩くことにより、リズムを正確に叩けるように練習ができます。

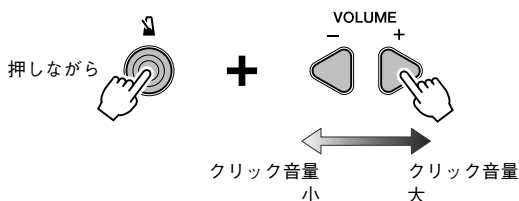
クリックを鳴らす/止める



- クリックを鳴らすには、[] ボタンを押します。
- クリックを止めるには、もう一度[] ボタンを押します。

クリックの音量を調節する

[] ボタンを押しながら VOLUME[+] ボタンまたは VOLUME[-] ボタンを押します。



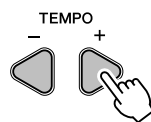
- VOLUME[+] ボタンを押すごとに、クリックの音量は上がります。
- VOLUME[-] ボタンを押すごとに、クリックの音量は下がります。

テンポの値を確認する

本体に設定されているテンポの値を、数字キーの点滅と英語の音声ガイド(ボイスナビゲーション)で確認できます。

テンポは数値が大きいほどはやくなります。

TEMPO[+] ボタンまたは TEMPO[-] ボタンのいずれかを1回だけ押します。

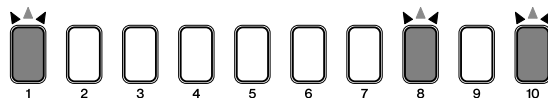


または

[] ボタンを押し続けます。



数字キーの数字が順に点滅し、テンポを表示します。



例：テンポ108のときは、数字キーが[1]→[10]→[8]の順に点滅します。

NOTE ボイスナビゲーションを消すには、メニューモードの "7-1. ボイスナビゲーションの音量" (53ページ) をご覧ください。

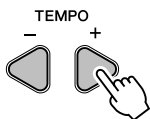
テンポを調節する

クリックのテンポを変更するには、3つの方法があります。

- TEMPO[+] ボタンやTEMPO[-] ボタンでテンポを増減させる
- 数字キーでテンポの値を入力する
- パッドを叩いてテンポを決める(タップテンポ)

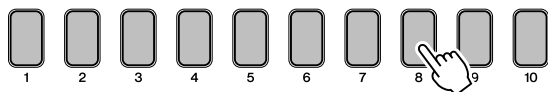
- NOTE**
- ・ 設定できるテンポの値は30～300です。
 - ・ ここでテンポを設定した後にソングを選びなおす(27ページ)と、クリックを鳴らすテンポはソングのテンポになります。

■ TEMPO[+] ボタンやTEMPO[-] ボタンでテンポを増減させる



- ・ テンポを1ずつ上げるには、TEMPO[+] ボタンを押します。
- ・ テンポを1ずつ下げるには、TEMPO[-] ボタンを押します。

■ 数字キーでテンポの値を入力する



1. [TEMPO+] ボタンを押しながら、数字キーでテンポを入力します。
入力したテンポは、ボイスナビゲーションで確認できます。

例：テンポ138を入力したいとき
数字キーは[1]→[3]→[8]と入力します。

2. 数字キーの入力が終わったら[TEMPO+] ボタンから指を離します。
入力されたテンポの値が英語のボイスナビゲーションで流れます。

NOTE 数字キーの[10]は、0を入力するときに使います。10の入力には使いません。

例：テンポ110を入力したいとき
数字キーは[1]→[1]→[10]と入力します。
[1]→[10]とは入力しません。

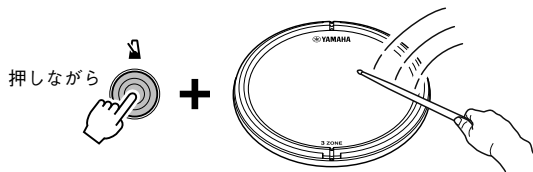
- ・ 2桁のテンポを入力するときは、先頭に0をつけた3桁の入力は必要ありません。

例：テンポ72を入力したいとき
数字キーは[7]→[2]と入力します。
[10]→[7]→[2]と入力する必要はありません。

- ・ ボイスナビゲーションが流れている間は、[TEMPO+] ボタンを押さず、数字キーだけでテンポを入力し直せます。

■ パッドを叩いてテンポを決める(タップテンポ)

1. [TEMPO+] ボタンを押しながら、お好みのテンポでパッドを3回以上叩きます。



2. [TEMPO+] ボタンから指を離します。
決定したテンポは、ボイスナビゲーションで確認できます。

NOTE パッドを叩く代わりに、TEMPO[+] ボタンまたはTEMPO[-] ボタンを3回以上押してもテンポを設定できます。

その他の設定をする

以下の項目は、メニューモードで設定できます。詳しくはメニューモードの“クリック設定”(42ページ)をご覧ください。

- ・ クリックのパターンを選ぶ
- ・ クリックの拍子を設定する
- ・ クリックの音色を設定する
- ・ クリック再生時の数字キーの光り方を設定する

トレーニングモードで練習する

トレーニングとは、ドラムを楽しく練習する機能です。10種類のトレーニングがあります。

基礎トレーニング

リズム感を鍛えよう

リズムゲート(2種類)	32ページ
メジャーブレイク	36ページ
チェンジアップ	37ページ

叩く強さを練習しよう

ダイナミックゲート	33ページ
-----------------	-------

何回叩けるか挑戦しよう

ファストブラスト	39ページ
----------------	-------

パート別に練習しよう

パートミュート	38ページ
---------------	-------

自分の演奏を聴いてみよう

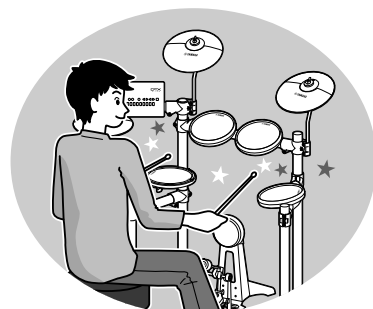
レコーダー	40ページ
-------------	-------

実践トレーニング

ー基礎ができたならチャレンジ！ー

ソングに合わせて練習しよう

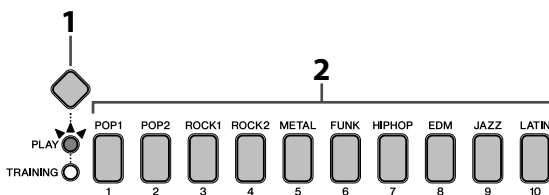
ソングパートゲート	34ページ
ソングスコアゲート	35ページ



トレーニングを始める前に

トレーニングしたい音楽ジャンルを設定しておきます。

1. モードスイッチを押して「PLAY」を点灯させます。
2. 数字キーで使用したい音楽ジャンルを選びます。



トレーニングの詳細設定

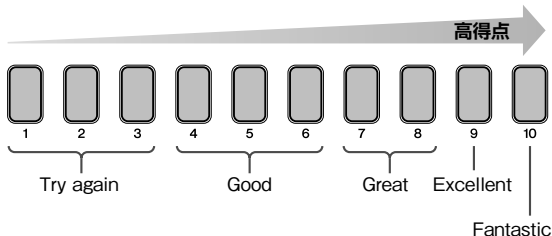
トレーニングの時間や難易度など、トレーニングに関する詳細な設定は、メニューモードで変更できます。(詳しくは41ページ参照)

トレーニングを終えた後に

以下のトレーニングでは、トレーニング終了後に採点結果が表示されます。

- ・リズムゲート
- ・ダイナミックゲート
- ・ソングスコアゲート
- ・チェンジアップ

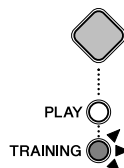
数字キー [10] の点灯が最高得点で、[1] の点灯が最低得点の10段階評価です。また、音声でも5段階で評価されます。たくさん練習して高得点を狙いましょう。



他のトレーニングに切り替える

他のトレーニングに切り替えるには、トレーニングモードに入りなおす必要があります。

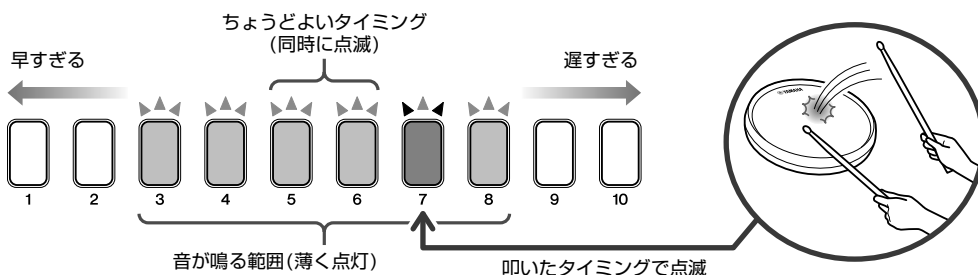
1. モードスイッチを押して「PLAY」を点灯させます。
2. モードスイッチをもう一度押して「TRAINING」を点灯させます。



リズム感を鍛えよう

1. RHYTHM GATE、2. RHYTHM GATE ♪♪♪ (リズムゲート)

リズムゲートは、ソングやクリック音に合わせて、正確なタイミングでパッドを叩くトレーニングです。正確に叩くと数字キー [5][6] が同時に点滅します。叩くのが早すぎたり遅すぎたりすると音が鳴りません。リズムゲートでドラマーに必要なリズム感を鍛えましょう！



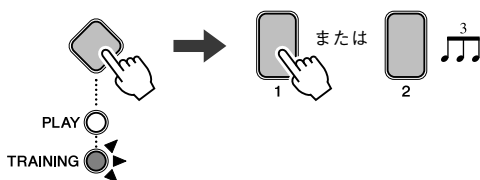
操作方法

1. モードスイッチを押して「TRAINING」を点灯させます (トレーニングモード)。

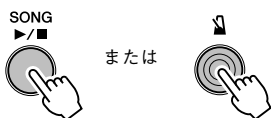
NOTE TRAINING が点灯している場合は一度PLAYを点灯させてからもう一度TRAININGを点灯させてください。

2. 数字キー [1] または [2] を押してリズムゲートを選びます。[1] が 16 分音符のリズム、[2] が三連符 ♪♪♪ のリズムでの練習です。

[] ボタンと [/] ボタンが点滅して、トレーニングがスタンバイ状態になります。



3. ソングで練習するときは [/] ボタン、クリック音で練習するときは [] ボタンを押して、トレーニングを開始します。



NOTE 必要に応じて、クリックパターンを 16 分音符や三連符に変更してください。

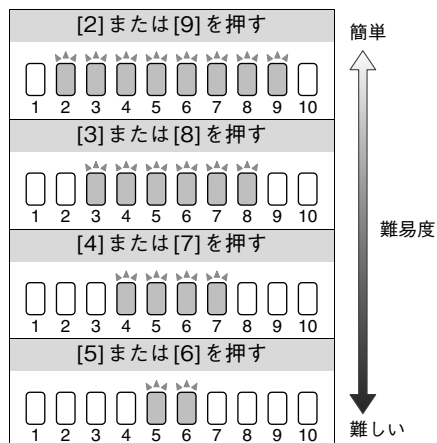
4. ソングまたはクリック音に合わせて、正確なタイミングでパッドを叩きます。

5. トレーニングを終了するには、3. で押したボタンをもう一度押します。

採点結果が表示されます。(採点機能については 31 ページ参照)

TIPS

- ・トレーニングのスタンバイ状態またはトレーニング中に数字キー [2] ~ [9] を押すと、叩いて音が鳴る範囲を変更できます。範囲が狭いほど、トレーニングがより難しくなります。

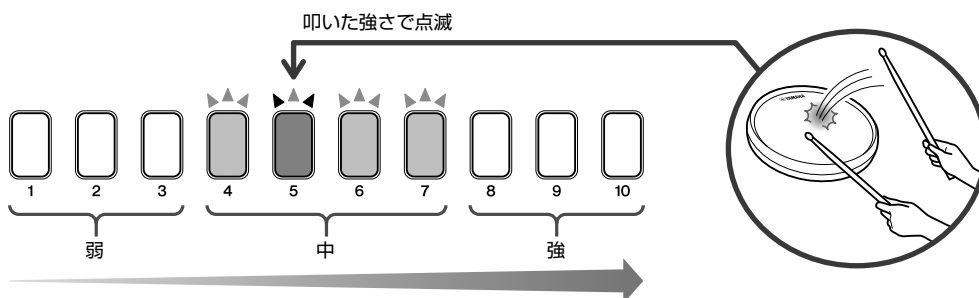


- ・タイミング表示 (早すぎる、遅すぎる) できます。(メニューモード “リズムゲートの表示反転” (52 ページ))
- ・トレーニング時間を設定できます。(メニューモード “タイマー” (51 ページ))
- ・タイミングがずれたときにドラムの音を鳴らす / 鳴らさないが設定できます。(メニューモード “タイミング外の発音” (51 ページ))

叩く強さを練習しよう

3. DYNAMIC GATE(ダイナミックゲート)

ダイナミックゲートは、パッドを叩く強さをコントロールするトレーニングです。叩く強さは、弱、中、強の3段階で練習できます。強さを間違えると音が鳴りません。正しい強さで叩けたかどうかを採点します。ダイナミックゲートを練習すれば、強弱を使い分けた演奏ができるようになります。



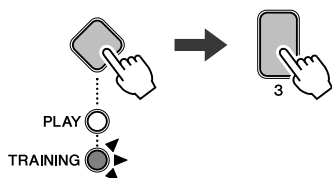
操作方法

1. モードスイッチを押して「TRAINING」を点灯させます。

NOTE TRAININGが点灯している場合は一度PLAYを点灯させてからもう一度TRAININGを点灯させてください。

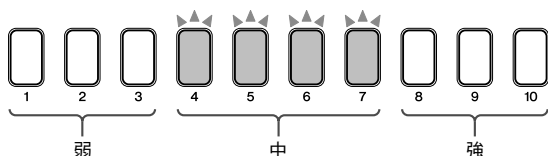
2. 数字キー [3] を押してダイナミックゲートを選びます。

[▶/■] ボタンが点滅して、トレーニングがスタンバイ状態になります。



3. 練習したいパッドを叩きます。

4. 数字キーを押して、練習したい強さを選びます。
[1]～[3]は弱、[4]～[7]は中、[8～10]は強の3段階です。
選択したエリアの数字キーが薄く点灯します。



5. [▶/■] ボタンを押して、トレーニングを開始します。



6. 4.で設定した強さでパッドを叩きます。
正しい強さで叩いたときだけ、音が鳴って数字キーが点滅します。

7. トレーニングを終了するには、[▶/■] ボタンを押します。
採点結果が表示されます。(採点機能については31ページ参照)

TIPS

- ・強さ設定の範囲を変更できます。(メニューモード“ダイナミックゲートのローリミット”と“ダイナミックゲートのハイリミット”(52ページ))
- ・トレーニング時間を設定できます。(メニューモード“タイマー”(51ページ))

ソングに合わせて練習しよう

4. SONG PART GATE(ソングパートゲート)

ソングパートゲートは、ソングを部分的に練習する実践的なトレーニングです。たとえば、ソングの一部を練習したり、ソングの基本ドラムパターンについて、手のパートだけを練習したりできます。ほかのトレーニングでドラムテクニックを練習したあとに、ぜひソングパートゲートに挑戦してください。そして、ソングパートゲートをマスターしたあとは、ソングスコアゲート(35ページ)でソング全体を演奏してみましょう！

NOTE ドラム譜(PDF)は、以下のサイトからダウンロードできます。

<https://jp.yamaha.com/support/>

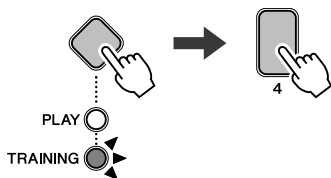


操作方法

1. モードスイッチを押して「TRAINING」を点灯させます。

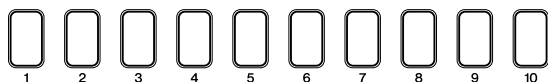
NOTE TRAININGが点灯している場合は一度PLAYを点灯させてからもう一度TRAININGを点灯させてください。

2. 数字キー [4] を押してソングパートゲートを選びます。
[▶/■] ボタンが点滅して、トレーニングがスタンバイ状態になります。



3. 数字キーを押して、練習パートを選びます。

NOTE 練習パートは音楽ジャンルによって異なります。詳しくは、ドラム譜(PDF)をご覧ください。



4. [▶/■] ボタンを押して、トレーニングを開始します。
ソングが再生されます。



5. お手本ドラムに合わせて演奏します。
6. トレーニングを終了するには、[▶/■] ボタンをもう一度押します。

採点方法

リピートのたびに5段階の音声評価で知らせます。トレーニング終了後の採点はありません。

TIPS

- 音楽ジャンルを変更できます。(対応する数字キーを長押し)
- お手本のボリュームを調節できます。([▶/■] ボタンを押しながら VOLUME[+]/[-] ボタンを押す)
- お手本ドラムの特定パートをミュートできます。
 - [DRUM ON/OFF] ボタンが薄く点灯しているときに効果します。
 - ソング再生中に、ミュートしたいパッドを叩きます。叩いたパッドのパートがミュートされます。
 - パートのミュートを解除するには、しばらくそのパッドを叩かずにいてください。自動的に解除されます。
 - [DRUM ON/OFF] ボタンを押して(点灯)、ミュート設定機能を終了します。
- トレーニング時間を設定できます。(メニューモード“タイマー”(51ページ))
- 難易度を調節できます。(メニューモード“難易度”(51ページ))
- タイミングを外して叩いた場合に音を鳴らす/鳴らさないを設定できます。(メニューモード“タイミング外の発音”(51ページ))

ソングに合わせて練習しよう

5. SONG SCORE GATE(ソングスコアゲート)

ソングスコアゲートは、ソング1曲に合わせてドラムをフル演奏する実践的なトレーニングです。ソングパートゲート(34ページ)でソングの部分練習をしてから、ぜひソングスコアゲートに挑戦してください。

NOTE ドラム譜(PDF)は、以下のサイトからダウンロードできます。

<https://jp.yamaha.com/support/>

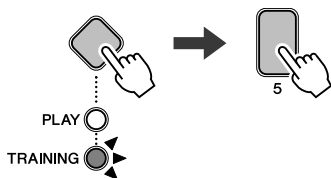


操作方法

1. モードスイッチを押して「TRAINING」を点灯させます。

NOTE TRAININGが点灯している場合は一度PLAYを点灯させてからもう一度TRAININGを点灯させてください。

2. 数字キー [5] を押してソングスコアゲートを選びます。
[▶/■] ボタンが点滅して、トレーニングがスタンバイ状態になります。



3. [▶/■] ボタンを押して、トレーニングを開始します。



4. 演奏します。
曲を最後まで演奏すると、採点結果が表示されます。(採点機能については31ページ参照)
5. 途中でトレーニングを終了するには、[▶/■] ボタンをもう一度押します。
途中で終了すると、採点結果が表示されません。

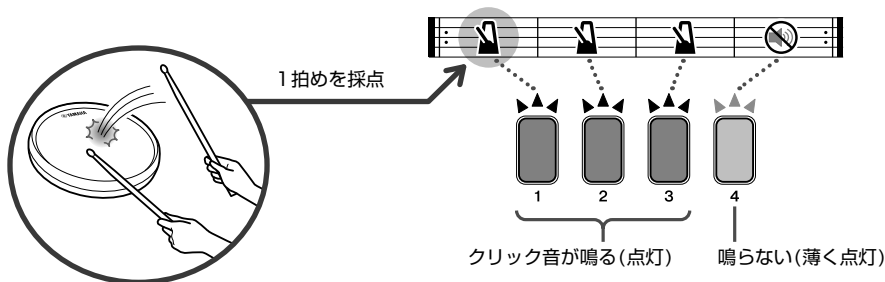
TIPS

- 音楽ジャンルを変更できます。(対応する数字キーを押す)
- ソングのボリュームを調整できます。([▶/■] ボタンを押しながら VOLUME[+]/[-] ボタンを押す)
- お手本ドラムの特定パートをミュートできます。
 - [DRUM ON/OFF] ボタンが薄く点灯しているときに効果します。
 - ソング再生中に、ミュートしたいパッドを叩きます。
叩いたパッドのパートがミュートされます。
 - パートのミュートを解除するには、しばらくそのパッドを叩かずにいてください。自動的に解除されます。
 - [DRUM ON/OFF] ボタンを押して(点灯)、ミュート設定機能を終了します。
- 難易度を調節できます。(メニューモード“難易度”(51ページ))
- タイミングを外して叩いた場合に音を鳴らす/鳴らさないを設定できます。(メニューモード“タイミング外の発音”(51ページ))

リズム感を鍛えよう

6. MEASURE BREAK(メジャーブレイク)

メジャーブレイクは、クリック音に頼らずにテンポを維持するトレーニングです。クリック音が鳴らない小節でもテンポを維持し、クリック音が再開された1小節めの1拍目をタイミングよく叩けたかどうかを採点します。メジャーブレイクを練習すれば、曲の空白部分やフィルイン演奏でもテンポを維持できるようになります。

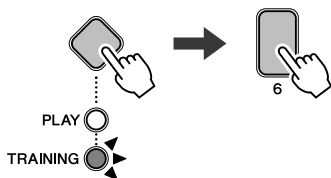


操作方法

1. モードスイッチを押して「TRAINING」を点灯させます。

NOTE TRAININGが点灯している場合は一度PLAYを点灯させてからもう一度TRAININGを点灯させてください。

2. 数字キー [6] を押してメジャーブレイクを選びます。
[👤] ボタンが点滅して、トレーニングがスタンバイ状態になります。



3. [👤] ボタンを押して、トレーニングを開始します。
4小節(1～3小節がクリック音あり、4小節めがクリック音なし)がリピート再生され、各小節の1拍目で数字キーが点滅します。



4. パッドを叩いて練習します。
5. トレーニングを終了するには、[👤] ボタンを押します。

採点方法

1小節めの1拍目をタイミングよく叩けたかどうかを、リピートのたびに5段階の音声評価で知らせます。トレーニング終了後の採点はありません。

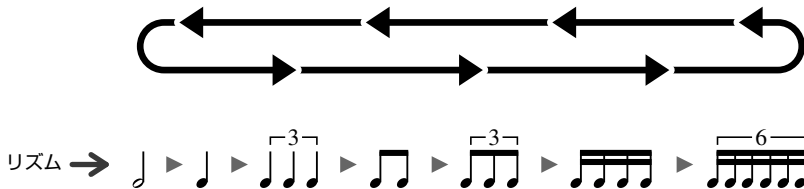
TIPS

- トレーニングの全小節数は2から10の間で変更できます。
トレーニングのスタンバイ状態またはトレーニング中に、設定したい小節数の**数字キー**が薄い点灯に変わるまで長押しします。
たとえば、10小節単位でトレーニングをくり返したいときは、[10]を長押しします。
- クリック音の鳴る小節数は変更できます。
トレーニングのスタンバイ状態またはトレーニング中に、鳴らしたい小節数の**数字キー**を押します。ただし、最後の1小節はクリック音が鳴らない設定しか選べません。
たとえば、トレーニングの全小節数が10のとき、**数字キー [6]**を押すと、1～6小節はクリック音が鳴り、7～10小節はクリック音が鳴りません。
- トレーニング時間を設定できます。(メニューモード“タイマー”(51ページ))

リズム感を鍛えよう

7. CHANGE UP(チェンジアップ)

チェンジアップは、7種類のリズムを2小節ごとに叩くトレーニングです。リズムを間違えずに叩けたかどうかを採点します。リズムが変わっても一定のテンポで叩けるように練習しましょう！

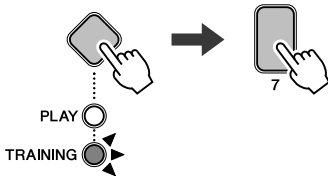


操作方法

1. モードスイッチを押して「TRAINING」を点灯させます。

NOTE TRAININGが点灯している場合は一度PLAYを点灯させてからもう一度TRAININGを点灯させてください。

2. 数字キー [7] を押してチェンジアップを選びます。
[▶/■] ボタンが点滅して、トレーニングがスタンバイ状態になります。



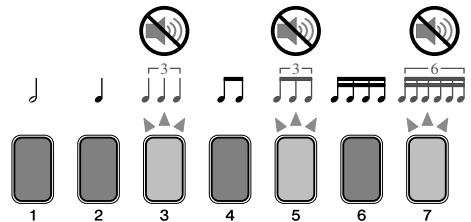
3. [▶/■] ボタンを押して、トレーニングを開始します。
お手本のリズムとクリックが再生されます。リズムは2小節ごとに変わります。



4. お手本に合わせてパッドを叩きます。
5. トレーニングを終了するには、[▶/■] ボタンを押します。
採点結果が表示されます。(採点機能については31ページを参照)

TIPS

- お手本のボリュームを調整できます。([▶/■] ボタンを押しながらVOLUME[+]/[-] ボタンを押す)
- お手本をミュートできます。([DRUM ON/OFF] ボタンを押す。もう一度押すと解除)
- リズムは全7種類ですが、トレーニングのスタンバイ状態またはトレーニング中に数字キー [1] ~ [7] を押して不要なリズムを省くことができます。再生されないリズムは薄く点灯します。

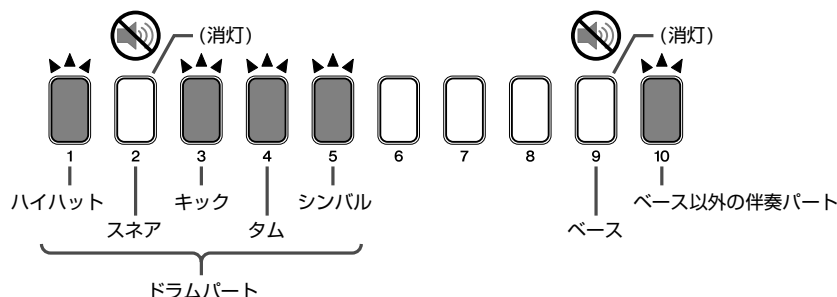


- デフォルトでは2小節ごとにリズムが変わりますが、数字キー [10] を押して小節数を変更できます。([10] が薄く点灯で4小節、点灯で1小節、消灯でデフォルトの2小節に戻る)
- トレーニング時間を設定できます。(メニューモード “タイマー” (51 ページ))
- 難易度を調節できます。(メニューモード “難易度” (51 ページ))
- タイミングがずれたときにドラムの音を鳴らす/鳴らさないが設定できます。(メニューモード “タイミング外の発音” (51 ページ))

パート別に練習しよう

8. PART MUTE(パートミュート)

パートミュートは、ソングに合わせて演奏するときに、ドラムの各パート(スネアやキックなど)や、ドラム以外の伴奏パートをミュート(消音)させることができるトレーニングです。数字キーでミュートしたい音色/パートを選択できます。たとえば、スネアだけを練習したり、ベースとドラムでセッションしたりするなど、パートミュートはいろいろな使い方ができます。なお、このトレーニングには採点機能はありません。

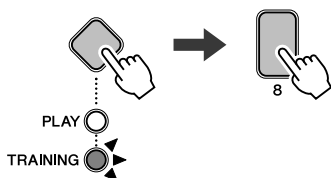


操作方法

1. モードスイッチを押して「TRAINING」を点灯させます。

NOTE TRAININGが点灯している場合は一度PLAYを点灯させてからもう一度TRAININGを点灯させてください。

2. 数字キー [8] を押してパートミュートを選びます。
[▶/■] ボタンが点滅して、トレーニングがスタンバイ状態になります。



3. 数字キー [1] ~ [5] および [9] ~ [10] を押して、ミュートしたいドラムのパートまたはドラム以外の伴奏パートを選びます。ミュートされると消灯します(ページ上図)。ミュートを解除するには、もう一度数字キーを押して点灯させます。
4. [▶/■] ボタンを押して、トレーニングを開始します。



5. パッドを叩いてトレーニングします。
パッドを叩くと、対応する数字キーが点滅します。
6. トレーニングを終了するには、もう一度[▶/■] ボタンを押します。

TIPS

ドラムの各パートは、パッドを叩いてミュートすることもできます。

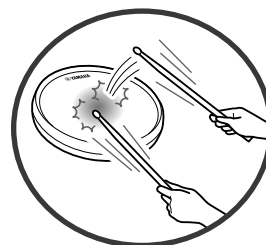
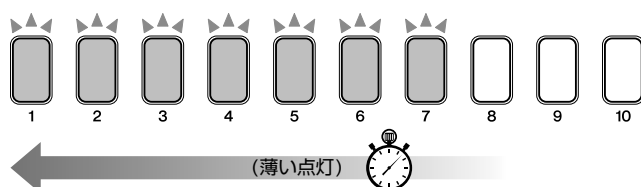
- [DRUM ON/OFF] ボタンを押します(薄い点灯)。
- ミュートしたいパッドを叩きます。
叩いたパッドのパートがミュートされ、対応する数字キーが薄く点灯します。
- パートのミュートを解除するには、しばらくそのパッドを叩かずにいてください。自動的に解除され、対応する数字キーが点灯します。
- [DRUM ON/OFF] ボタンを押して(点灯)、ミュート設定機能を終了します。

NOTE 数字キーであらかじめミュート設定している場合(数字キーが消灯)は、ミュートが継続されます。

何回叩けるか挑戦しよう

9. FAST BLAST(ファストブラスト)

ファストブラストは、制限時間(60秒)内に何回パッドを叩けるかを競うトレーニングです。数字キーの薄い点灯が残り時間を示しています。すべての薄い点灯が消えたらトレーニング終了です。叩いた回数は、数字キーの点灯と音声でお知らせします。ゲーム感覚で楽しく高得点を狙いましょう！

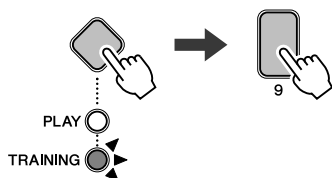


操作方法

1. モードスイッチを押して「TRAINING」を点灯させます。

NOTE TRAININGが点灯している場合は一度PLAYを点灯させてからもう一度TRAININGを点灯させてください。

2. 数字キー [9]を押してファストブラストを選びます。
[▶/■]ボタンが点滅して、トレーニングがスタンバイ状態になります。



3. [▶/■]ボタンを押して、トレーニングを開始します。
パッドを叩き始めてからトレーニングは開始されます。



4. 制限時間内に、パッドをできるだけたくさん叩きます。
制限時間が終了すると、採点結果が表示されます。
5. 途中でトレーニングを終了するには、[▶/■]ボタンを押します。

採点方法

たとえば、480回叩いた場合、数字キーは[4]→[8]→[10]の順に光ります。

- ・採点結果は音声(英語)でもお知らせします。
- ・採点結果をもう一度知りたいときは、**数字キー [1]～[10]**のいずれかを1つ押します。

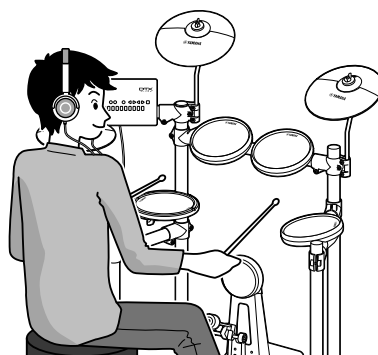
TIPS

制限時間を変えることができます。(メニューモード“ファストブラストのタイマー”(53ページ))

自分の演奏を聴いてみよう

10. RECORDER(レコーダー)

レコーダーは、自分の演奏を手軽に録音できる機能です。自分の演奏を聴いたり、自分の録音演奏とセッションしたりして、自主トレーニングに活用しましょう！なお、この機能には採点機能はありません。

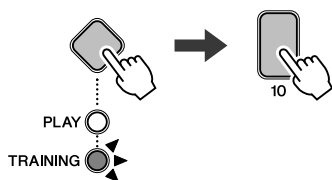


操作方法

1. モードスイッチを押して「TRAINING」を点灯させます。

NOTE TRAININGが点灯している場合は一度PLAYを点灯させてからもう一度TRAININGを点灯させてください。

2. 数字キー [10] を押してレコーダーを選びます。
[▶/■] ボタンが点滅して、録音のスタンバイ状態になります。



3. パッドを叩くと(自動的に)録音が始まります。
4. 演奏が終わったら、しばらくパッドを叩かずにいます。
録音した演奏が自動再生されます。
5. トレーニングを終了するには、モードスイッチを押します。

TIPS

- ソングと一緒に自分の演奏を録音できます。(録音のスタンバイ状態で[▶/■] ボタンを押す)
- クリック音を聞きながら録音できます。(録音のスタンバイ状態で[■] ボタンを押す)
- 録音された演奏は、再生中にいずれかの数字キーを押すと停止します。もう一度押すと最初から再生します。
- 録音された演奏は、トレーニングモードを終了すると消去されます。
- 録音は4拍子固定で行なわれます。

メニューモードで詳細な設定をする

メニューモードには、この製品をより細かく設定できる7つの項目があります。

1 クリック設定

1-1. バターン.....	42ページ
1-2. 拍子.....	42ページ
1-3. 音色.....	42ページ
1-4. 数字キーの光り方.....	43ページ

2 キット設定

2-1. 各パッドの音色.....	43ページ
2-2. 各パッドの音量.....	43ページ
2-3. 各パッドのチューニング.....	44ページ
2-4. ツーバス.....	44ページ
2-5. リバープ(残響効果).....	44ページ

3 MIDI設定

3-1. ローカルコントロール.....	45ページ
3-2. ノートナンバー.....	45ページ

4 ハイハット設定

4-1. ハイハットクラッチの位置.....	46ページ
4-2. ハイハットブラッシュの感度.....	46ページ
4-3. フットクローズの位置.....	46ページ
4-4. フットクローズのペロシティー.....	47ページ
4-5. キックのペロシティー.....	47ページ

5 トリガー設定

5-1. パッドのペロシティーカーブ.....	48ページ
5-2. クロストーク.....	49ページ
5-3. スネアパッドの種類.....	49ページ
5-4. ペダルの種類.....	50ページ
5-5. ゲイン.....	50ページ
5-6. 最小レベル.....	50ページ

6 トレーニング設定

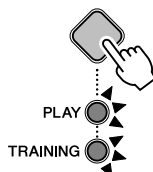
6-1. タイマー.....	51ページ
6-2. 難易度.....	51ページ
6-3. タイミング外の発音.....	51ページ
6-4. リズムゲートの表示反転.....	52ページ
6-5. ダイナミックゲートのローリミット.....	52ページ
6-6. ダイナミックゲートのハイリミット.....	52ページ
6-7. ファストブラストのタイマー.....	53ページ

7 その他設定

7-1. ボイスナビゲーションの音量.....	53ページ
7-2. パネル操作音の音量.....	53ページ
7-3. USBオーディオの出力設定.....	54ページ
7-4. USBオーディオの出力ゲイン.....	54ページ
7-5. オートパワーオフ時間.....	54ページ
7-6. ステレオ/モノラル.....	55ページ
7-7. キットの初期化.....	55ページ
7-8. ソングの削除.....	55ページ
7-9. 電源オン時の状態に復元.....	56ページ
7-10. ファクトリリセット.....	56ページ

メニューモードの基本操作

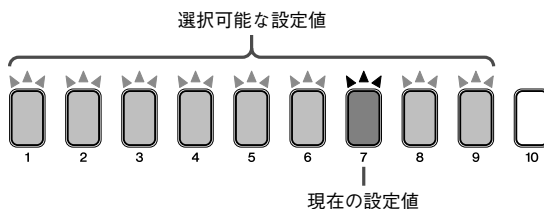
1. モードスイッチを長押しして、「PLAY」と「TRAINING」を点灯させます(メニューモード)。



2. 設定したい項目番号を数字キーで入力します(左のツリー図参照)。たとえば、「1-2. 拍子」を選択するときは、[1]→[2]の順に押します。

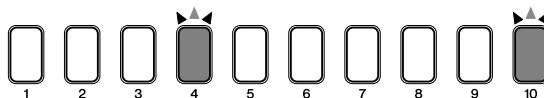
・設定値が10以下の場合

現在の設定値の数字キーが点灯し、選択可能な数字キーが薄く点灯します。



・設定値が10を超える場合

現在の設定値を数字キーの点滅と音声で知らせます。たとえば、設定値が40のときは、[4]→[10]の順に点滅します。



3. 設定値を入力します。

・設定値が10以下の場合

選択可能な数字キー(薄く点灯)の中から選んで押します。

・設定値が10を超える場合

TEMPO[+]/[-]ボタンで設定値を増減させたあと、しばらく操作しないと値が確定されます。

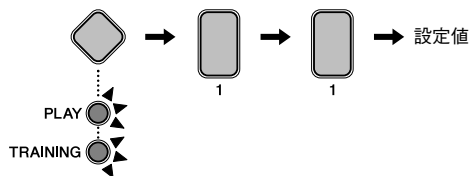
NOTE

設定値が10を超える場合、数字キーで直接入力することもできます。たとえば、105の値を入力したいときは、数字キーを[1]→[10]→[5]の順に押します。[10]は0を入力するときに使います。10の入力には使いません。

1 クリック設定

1-1. パターン

手順：
モードスイッチを長押し → [1] → [1] → 設定値



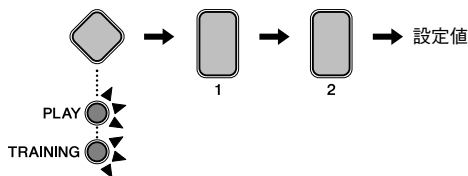
クリックのパターンを、8種類のテンプレートから選べます。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [1] を押して“クリック設定”を選びます。
3. 数字キー [1] を押して“パターン”を選びます。
4. お好みのテンプレートを、数字キー [1]～[8]の中から1つ選んで押します。

数字キー	設定値
[1]	
[2]	
[3]	
[4]	
[5]	3-2 ソン・クラーベ
[6]	2-3 ソン・クラーベ
[7]	3-2 ルンバ・クラーベ
[8]	2-3 ルンバ・クラーベ

1-2. 拍子

手順：
モードスイッチを長押し → [1] → [2] → 設定値



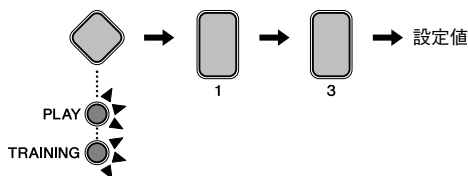
クリックの拍子を、1拍子から9拍子まで設定できます。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [1] を押して“クリック設定”を選びます。
3. 数字キー [2] を押して“拍子”を選びます。
4. お好みの拍子を、数字キー [1]～[9]の中から1つ選んで押します。

数字キー	設定値
[1]	1拍子
[2]	2拍子
[3]	3拍子
[4]	4拍子
[5]	5拍子
[6]	6拍子
[7]	7拍子
[8]	8拍子
[9]	9拍子

1-3. 音色

手順：
モードスイッチを長押し → [1] → [3] → 設定値



オーソドックスなメトロノーム音色をはじめ、カウベル音やスティック音、人間の声によるクリックから、お好みのクリック音色を選べます。

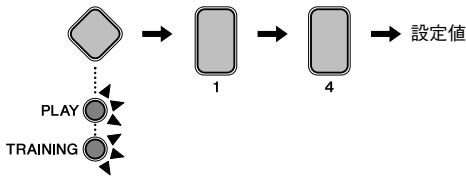
1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [1] を押して“クリック設定”を選びます。
3. 数字キー [3] を押して“音色”を選びます。

4. お好みのクリックの音色を、**数字キー** [1]～[7]の中から1つ選んで押します。

数字キー	設定値
[1]	メトロノーム 1
[2]	メトロノーム 2
[3]	カウベル
[4]	スティック
[5]	クラベス
[6]	ヒューマン 1
[7]	ヒューマン2 (小節番号読み上げ)

1-4. 数字キーの光り方

手順：
モードスイッチを長押し → [1] → [4] → 設定値



プレイモードでクリックを再生させたとき、数字キー [1]～[10]を点灯させることができます。

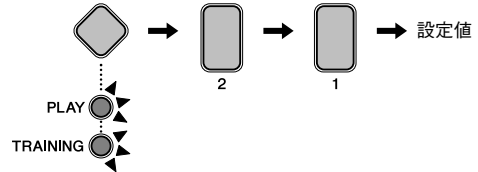
1. **モードスイッチ**を長押しして、メニューモードに入ります。
2. **数字キー** [1]を押して“クリック設定”を選びます。
3. **数字キー** [4]を押して“数字キーの光り方”を選びます。
4. お好みの点灯方法を、**数字キー** [1]～[3]の中から1つ選んで押します。

数字キー	設定値
[1]	オフ(点灯なし)
[2]	パターン1
[3]	パターン2

2 キット設定

2-1. 各パッドの音色

手順：
モードスイッチを長押し → [2] → [1] → 設定値



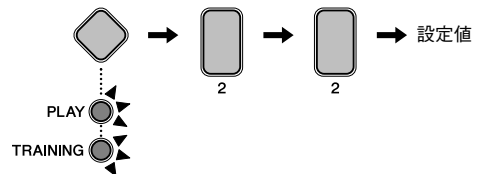
ドラムキットに割り当てられている各パッドの音色をお好みの音に変更できます。あなただけのオリジナルキットを作成しましょう。

1. **モードスイッチ**を長押しして、メニューモードに入ります。
2. **数字キー** [2]を押して“キット設定”を選びます。
3. **数字キー** [1]を押して“各パッドの音色”を選びます。
4. 設定したいパッドを叩いて選びます。
5. 設定値(音色番号)を、**TEMPO**[+]/[–]ボタンで設定します。設定値を変更すると、選択された音が鳴ります。音色番号については、62ページのボイスリストを参照してください。

設定値
1～287

2-2. 各パッドの音量

手順：
モードスイッチを長押し → [2] → [2] → 設定値



ドラムキットに割り当てられている各パッドの音量をお好みの状態に調節しましょう。

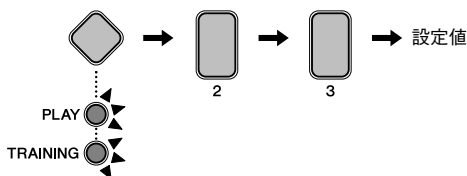
1. **モードスイッチ**を長押しして、メニューモードに入ります。
2. **数字キー** [2]を押して“キット設定”を選びます。
3. **数字キー** [2]を押して“各パッドの音量”を選びます。

- 設定したいパッドを叩いて選びます。
- 設定値(音量)を、TEMPO[+]/[-]ボタンで設定します。

設定値
0~127

2-3. 各パッドのチューニング

手順：
モードスイッチを長押し → [2] → [3] → 設定値



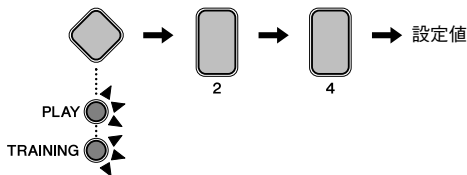
ドラムキットに割り当てられている各パッドをお好みのピッチにチューニングできます。

- モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
- 数字キー [2] を押して “キット設定” を選びます。
- 数字キー [3] を押して “各パッドのチューニング” を選びます。
- 設定したいパッドを叩いて選びます。
- 設定値(チューニング)を、TEMPO[+]/[-]ボタンで設定します。設定値1ごとに25セントずつピッチが変わります。セントとは、半音を100等分したピッチの単位です。基準ピッチは、64(0セント)です。

設定値
16(-1200セント)~64(0セント)~112(+1200セント)

2-4. ツーバス

手順：
モードスイッチを長押し → [2] → [4] → 設定値



この機能を有効にすると、HI-HAT CONTROL端子に接続されたハイハットコントローラーを踏んだときにバスドラムの音を鳴らすことができるので、気軽にツーバスの演奏を楽しめます。

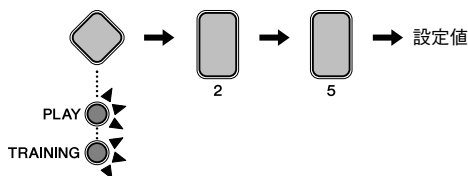
- モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
- 数字キー [2] を押して “キット設定” を選びます。
- 数字キー [4] を押して “ツーバス” を選びます。
- ツーバスの設定を、数字キー [1] ~ [2] の中から1つ選んで押します。

数字キー	設定値
[1]	オフ
[2]	オン

- NOTE**
- この機能を有効にすると、HI-HAT CONTROL端子に接続したハイハットコントローラーからハイハットオープン/クローズが操作できなくなります。
 - ハイハットコントローラー HH40をお使いの場合は、4-5. キックのペロシティー (47ページ) で強さを調節できます。

2-5. リバース(残響効果)

手順：
モードスイッチを長押し → [2] → [5] → 設定値



コンサートホールやライブハウスで演奏しているようなリバース(残響効果)を設定できます。

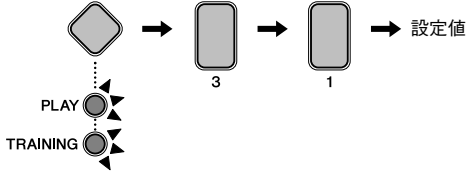
- モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
- 数字キー [2] を押して “キット設定” を選びます。
- 数字キー [5] を押して “リバース(残響効果)” を選びます。
- お好みのリバースを、数字キー [1] ~ [10] の中から1つ選んで押します。

数字キー	設定値
[1]	オフ
[2]	ホール
[3]	スタジオ
[4]	ルーム1
[5]	ルーム2
[6]	ステージ
[7]	スモールステージ
[8]	プレート
[9]	アーリーリフレクション
[10]	ゲートリバース

3 MIDI設定

3-1. ローカルコントロール

手順：
モードスイッチを長押し → [3] → [1] → 設定値



パッドやソングによる演奏に対して内蔵音源が発音する(オン) かしない(オフ) かを設定できます。通常は“オン”に設定します。“オフ”にすると、本体のパッド/コントローラー部と音源部が内部的に切り離され、パッドを叩いても音が出なくなります。シーケンサーやDAWソフトウェアなどに、ドラムの演奏をMIDIデータとして記録するときには、“オフ”にするとよいでしょう。

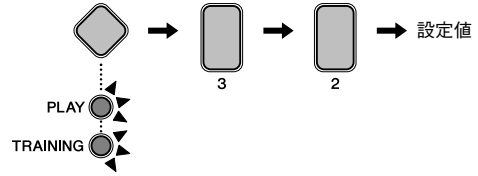
1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [3] を押して “MIDI設定” を選びます。
3. 数字キー [1] を押して “ローカルコントロール” を選びます。
4. ローカルコントロールの設定を、数字キー [1] ~ [2] の中から1つ選んで押します。

数字キー	設定値	説明
[1]	オフ	内蔵音源が鳴らなくなります。
[2]	オン	内蔵音源が鳴ります。

- NOTE**
- ・ローカルコントロールの設定値をオフにしても、本体に受信されたMIDIメッセージは発音します。
 - ・ローカルコントロールの設定値をオフにしても、本体の演奏情報はMIDI出力されます。

3-2. ノートナンバー

手順：
モードスイッチを長押し → [3] → [2] → 設定値



各パッドを叩いたときにMIDI出力されるノートナンバーを設定できます。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [3] を押して “MIDI設定” を選びます。
3. 数字キー [2] を押して “ノートナンバー” を選びます。
4. 設定したいパッドを叩いて選びます。
5. 設定値(ノートナンバー)を、TEMPO[+]/[-]ボタンで設定します。

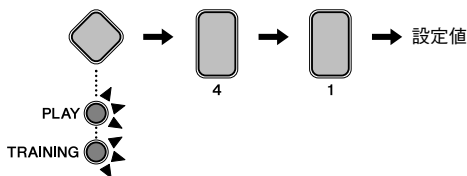
設定値
0 ~ 127

- NOTE** この機能は、本体をコンピューターに接続したときに有効です。詳しくはMIDIリファレンスマニュアル(PDF)をご覧ください。

4 ハイハット設定

4-1. ハイハットクラッチの位置

手順：
モードスイッチを長押し → [4] → [1] → 設定値



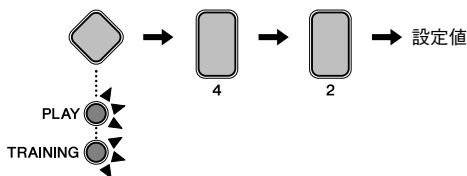
ハイハットクラッチの位置を調節した効果が得られます。設定値が小さいほどハイハットオープン音が速く減衰します。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [4] を押して “ハイハット設定” を選びます。
3. 数字キー [1] を押して “ハイハットクラッチの位置” を選びます。
4. 設定値(位置)を、TEMPO[+]/[–] ボタンで設定します。

設定値
0～64

4-2. ハイハットスブラッシュの感度

手順：
モードスイッチを長押し → [4] → [2] → 設定値



ハイハットスブラッシュを鳴らすときの感度を設定できます。値を大きくすると、ハイハットスブラッシュは鳴りやすくなります。しかしハイハットペダルを軽く踏んでリズムを取るときなど、音を鳴らしたくないときにも音が鳴る場合があります。ハイハットスブラッシュを鳴らしたくない場合は “オフ” に設定します。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [4] を押して “ハイハット設定” を選びます。

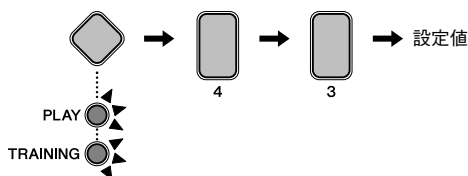
3. 数字キー [2] を押して “ハイハットスブラッシュの感度” を選びます。
4. 設定値(感度)を、TEMPO[+]/[–] ボタンで設定します。。

設定値
0～127

NOTE 設定値が0のときは “オフ” になります。

4-3. フットクローズの位置

手順：
モードスイッチを長押し → [4] → [3] → 設定値



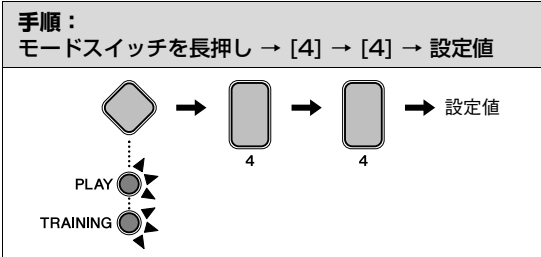
ハイハットコントローラーを踏んだときに、オープン音からクローズ音に切り替わる位置を調節できます。値が小さいほどトップとボトムの開きが狭い感じになります。値を大きくしていくとトップとボトムの開きが広くなり、ペダルを踏みこんでもフットクローズ/フットスブラッシュの音が鳴らなくなります。

この設定項目は、ハイハットコントローラー HH65 使用時のみ有効です。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [4] を押して “ハイハット設定” を選びます。
3. 数字キー [3] を押して “フットクローズの位置” を選びます。
4. 設定値(位置)を、TEMPO[+]/[–] ボタンで設定します。

設定値
0～32

4-4. フットクローズのベロシティー



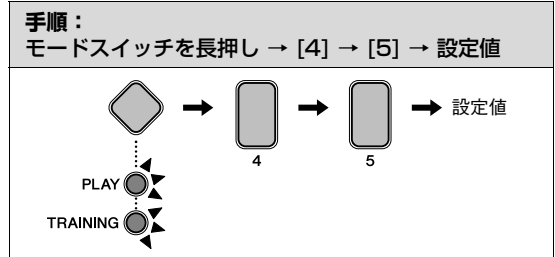
フットクローズ演奏時のベロシティー（音の強さ）を調節できます。

この設定項目は、ハイハットコントローラー HH40 使用時のみ有効です。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [4] を押して“ハイハット設定”を選びます。
3. 数字キー [4] を押して“フットクローズのベロシティー”を選びます。
4. 設定値(ベロシティー)を、TEMPO[+]/[–]ボタンで設定します。

設定値
1～127

4-5. キックのベロシティー



ハイハットコントローラーを踏んだときに発音されるキック音のベロシティー（音の強さ）を調節できます。このパラメーターは、“ツーバス”の設定(44ページ)が“オン”に設定されたキットが選ばれているときのみ有効となります。

この設定項目は、ハイハットコントローラー HH40 使用時のみ有効です。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [4] を押して“ハイハット設定”を選びます。
3. 数字キー [5] を押して“キックのベロシティー”を選びます。
4. 設定値(ベロシティー)を、TEMPO[+]/[–]ボタンで設定します。

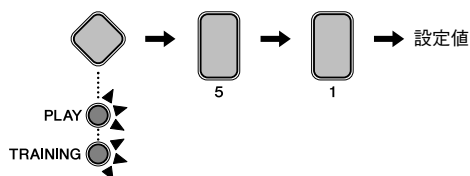
設定値
1～127

5 トリガー設定

5-1. パッドのベロシティーカーブ

手順：

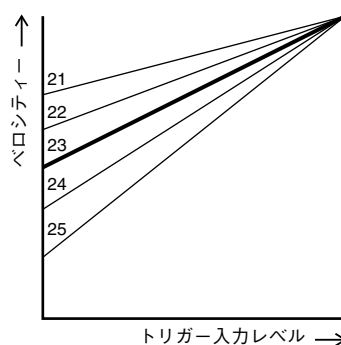
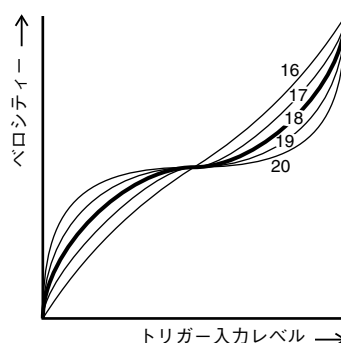
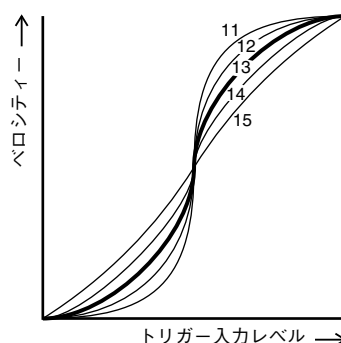
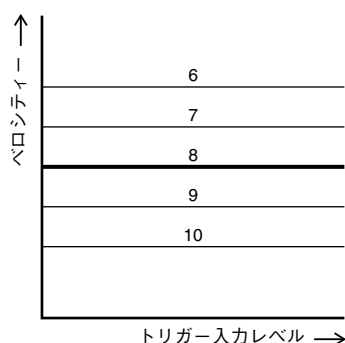
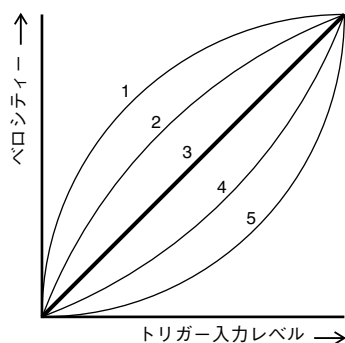
モードスイッチを長押し → [5] → [1] → 設定値



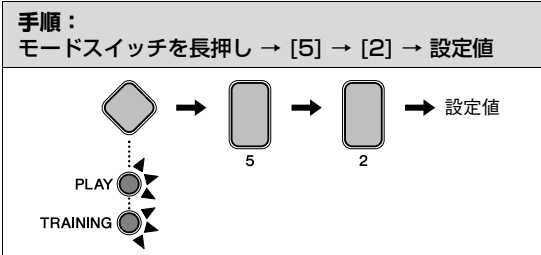
パッドを叩いたときに入力される信号(トリガー入力レベル)の変化に対する音の強さ(ベロシティー)の変化の仕方(ベロシティーカーブ)を設定できます。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [5] を押して “トリガー設定” を選びます。
3. 数字キー [1] を押して “パッドのベロシティーカーブ” を選びます。
4. 設定したいパッドを叩いて選びます。
5. 設定値(ベロシティーカーブ)を、TEMPO[+]/[-] ボタンで設定します。詳しくは、下の図をご覧ください。

設定値
1～25



5-2. クロストーク

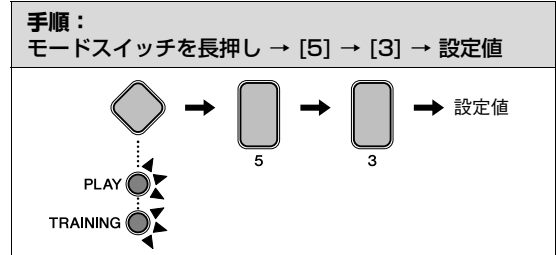


パッドを叩いたとき、共振やパッド間の干渉により他のパッドからトリガー信号が発生してしまうことをクロストークといいます。このパラメーターを調節することによってクロストークの発生を防止できます。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [5] を押して“トリガー設定”を選びます。
3. 数字キー [2] を押して“クロストーク”を選びます。
4. 設定したいパッドを叩いて選びます。
5. 設定値(%)を、**TEMPO[+]/[-]**ボタンで設定します。設定値が大きいほどクロストークが発生しにくくなりますが、弱打演奏のときに他のパッドと同時に発音しにくくなります。

設定値
0～99

5-3. スネアパッドの種類



スネアパッドの種類を設定できます。

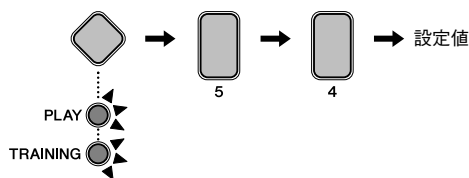
1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [5] を押して“トリガー設定”を選びます。
3. 数字キー [3] を押して“スネアパッドの種類”を選びます。
4. お使いのスネアパッドの種類を、数字キー [1]～[6]の中から1つ選んで押します。

数字キー	設定値
[1]	自動判別([2]と[3]の判別をします。)
[2]	TP70S
[3]	DTX402K/432K 付属のスネアパッド
[4]	XP シリーズ
[5]	TP70S リバース
[6]	XP シリーズ リバース

- NOTE**
- ・設定値が[1]のときは、同梱されているスネアパッドの種類を電源オン時に自動判別しています。また、数字キー [1] を押し続けると数字キー [2] または [3] が点滅して、自動判別された設定値が確認できます。
 - ・スネアパッドを入れ替えたときは、お使いの状態に合わせて[2]～[4]の設定値に変更してください。
例えばXPシリーズを追加する場合は、[4]に設定してください。
 - ・設定値を[5]か[6]に設定すると、リム1とリム2の音色が逆になります。左利きの方が左右対称のセッティングをする場合などに有効です。

5-4. ペダルの種類

手順：
モードスイッチを長押し → [5] → [4] → 設定値



ハイハットコントローラーとキックの種類を設定できます。

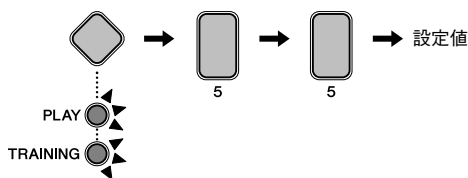
1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [5] を押して“トリガー設定”を選びます。
3. 数字キー [4] を押して“ペダルの種類”を選びます。
4. お使いのペダルの種類を、数字キー [1]～[5]の中から1つ選んで押します。

数字キー	設定値	
	ハイハット コントローラー	キック
[1]	自動判別 ([2] と [3] の判別をします。)	
[2]	HH65	KP65
[3]	HH40	KU100
[4]	HH40	KP65
[5]	HH65	KU100

- NOTE**
- 通常は[1]の設定値でお使いいただけます。
 - 設定値が[1]のときは、同梱されているペダルの種類を電源オン時に自動判別しています。また、数字キー [1] を押し続けると数字キー [2] または [3] が点滅して、自動判別された設定値が確認できます。
 - 電源を入れる前にハイハットコントローラーを接続してください。また電源オン時は、ハイハットコントローラーを踏まないでください。ペダルの自動判別がうまく作動せずに、キックの音が出にくくなる場合があります。
 - ハイハットコントローラーやキックを入れ替えたときは、お使いの状態に合わせて [2]～[5] の設定値に変更してください。

5-5. ゲイン

手順：
モードスイッチを長押し → [5] → [5] → 設定値



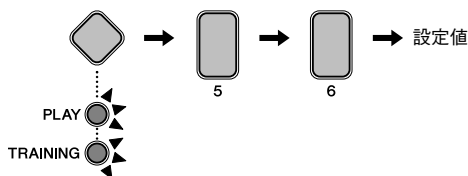
パッドごとに入力されるトリガー信号のゲイン(増幅率)を設定します。この値を大きくするほど、パッドを弱く叩いても発音しやすくなります。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [5] を押して“トリガー設定”を選びます。
3. 数字キー [5] を押して“ゲイン”を選びます。
4. 設定したいパッドを叩いて選びます。
5. 設定値(ゲイン)を、TEMPO[+]/[－] ボタンで設定します。

設定値
1～127

5-6. 最小レベル

手順：
モードスイッチを長押し → [5] → [6] → 設定値



ここで設定した最小レベル以下のトリガー信号では発音しません。

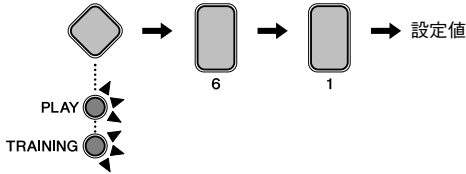
1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [5] を押して“トリガー設定”を選びます。
3. 数字キー [6] を押して“最小レベル”を選びます。
4. 設定したいパッドを叩いて選びます。
5. 設定値(%)を、TEMPO[+]/[－] ボタンで設定します。

設定値
0～99 (%)

6 トレーニング設定

6-1. タイマー

手順：
モードスイッチを長押し → [6] → [1] → 設定値



以下のトレーニングの練習時間を設定できます。

- ・リズムゲート
- ・ダイナミックゲート
- ・ソングパートゲート
- ・メジャーブレイク
- ・チェンジアップ

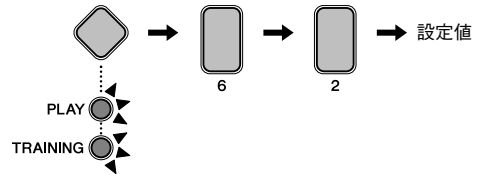
トレーニングを開始してから設定した時間が経過すると、トレーニングが自動的に停止します。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [6] を押して“トレーニング設定”を選びます。
3. 数字キー [1] を押して“タイマー”を選びます。
4. お好みの練習時間を、数字キー [1]～[10]の中から1つ選んで押します。

数字キー	設定値
[1]	オフ
[2]	30秒
[3]	60秒
[4]	90秒
[5]	120秒
[6]	150秒
[7]	180秒
[8]	300秒
[9]	480秒
[10]	600秒

6-2. 難易度

手順：
モードスイッチを長押し → [6] → [2] → 設定値



以下のトレーニングの難易度を設定できます。

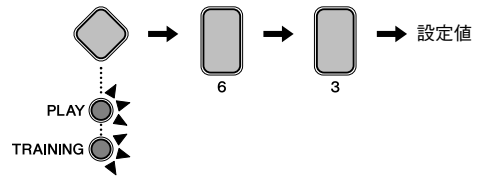
- ・ソングパートゲート
- ・ソングスコアゲート
- ・チェンジアップ

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [6] を押して“トレーニング設定”を選びます。
3. 数字キー [2] を押して“難易度”を選びます。
4. 設定値(難易度)を数字キー [1]～[5]で入力します。
値が大きいくほど、トレーニングは難しくなります。

設定値
1～5

6-3. タイミング外の発音

手順：
モードスイッチを長押し → [6] → [3] → 設定値



以下のトレーニングで、タイミングを外して叩いた場合に音を鳴らす/鳴らさないをドラムパートごとに設定できます。

- ・リズムゲート
- ・ソングパートゲート
- ・ソングスコアゲート
- ・チェンジアップ

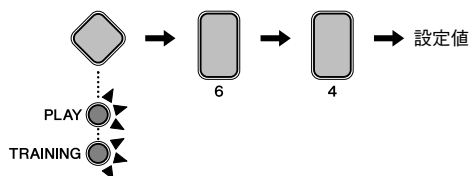
1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [6] を押して“トレーニング設定”を選びます。
3. 数字キー [3] を押して“タイミング外の発音”を選びます。

4. 数字キー [1]～[5]を押して、各パートの発音する/発音しないを選びます。発音しない(オフ)を選ぶと、数字キーが薄く点灯します。

数字キー	設定値
[1] ハイハット	 発音する(点灯)
[2] スネア	
[3] キック	
[4] タム	 発音しない(薄く点灯)
[5] シンバル	



6-4. リズムゲートの表示反転

手順：
モードスイッチを長押し → [6] → [4] → 設定値



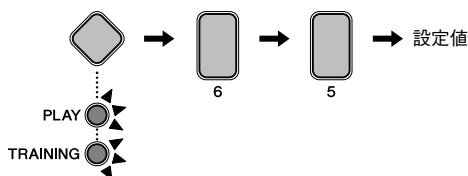
リズムゲート(32ページ)で、叩くタイミングの表示モードを反転できます。通常モードでは左側が「早い」、反転モードでは右側が「早い」になります。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [6]を押して“トレーニング設定”を選びます。
3. 数字キー [4]を押して“リズムゲートの表示反転”を選びます。
4. 設定値(表示モード)を、数字キー [1]～[2]で入力します。

数字キー	設定値	説明
[1]	通常モード	<p>早い ← → 遅い</p>  <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10</p>
[2]	反転モード	<p>遅い ← → 早い</p>  <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10</p>

6-5. ダイナミックゲートのローリミット

手順：
モードスイッチを長押し → [6] → [5] → 設定値



ダイナミックゲート(33ページ)のローリミット(弱と中のしきい値)を設定できます。

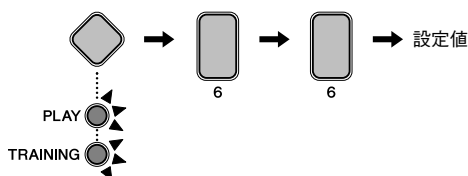
1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [6]を押して“トレーニング設定”を選びます。
3. 数字キー [5]を押して“ダイナミックゲートのローリミット”を選びます。
4. 設定値(しきい値)を、TEMPO[+]/[-]ボタンで設定します。

設定値
2～99

NOTE “6-6. ダイナミックゲートのハイリミット”の設定値を超えないように、設定値が自動で修正される場合があります。

6-6. ダイナミックゲートのハイリミット

手順：
モードスイッチを長押し → [6] → [6] → 設定値



ダイナミックゲート(33ページ)のハイリミット(中と強のしきい値)を設定できます。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [6]を押して“トレーニング設定”を選びます。
3. 数字キー [6]を押して“ダイナミックゲートのハイリミット”を選びます。

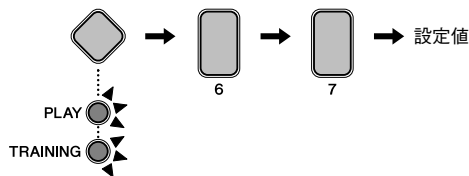
4. 設定値(しきい値)を、TEMPO[+]/[-]ボタンで設定します。

設定値
2～99

NOTE “6-5. ダイナミックゲートのローリミット”の設定値を下回らないように、設定値が自動で修正される場合があります。

6-7. ファストブラストのタイマー

手順：
モードスイッチを長押し → [6] → [7] → 設定値



ファストブラスト(39ページ)の練習時間を設定できます。設定した時間になると、トレーニングが自動的に停止します。

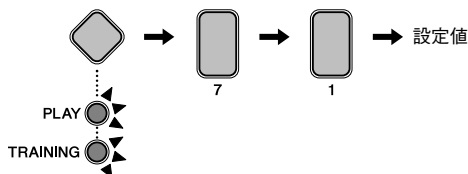
1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [6] を押して“トレーニング設定”を選びます。
3. 数字キー [7] を押して“ファストブラストのタイマー”を選びます。
4. お好みの練習時間を、数字キー [1]～[10]の中から1つ選んで押します。

数字キー	設定値
[1]	オフ
[2]	10秒
[3]	30秒
[4]	60秒
[5]	90秒
[6]	120秒
[7]	180秒
[8]	300秒
[9]	480秒
[10]	600秒

7 その他設定

7-1. ボイスナビゲーションの音量

手順：
モードスイッチを長押し → [7] → [1] → 設定値



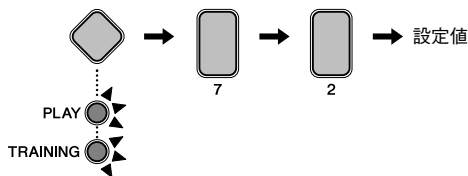
1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [7] を押して“その他設定”を選びます。
3. 数字キー [1] を押して“ボイスナビゲーションの音量”を選びます。
4. 設定値(ボイスナビゲーションの音量)を、数字キー [1]～[10]で入力します。

設定値
1～10

NOTE 設定値が1のときは、ボイスナビゲーションが鳴りません。

7-2. パネル操作音の音量

手順：
モードスイッチを長押し → [7] → [2] → 設定値



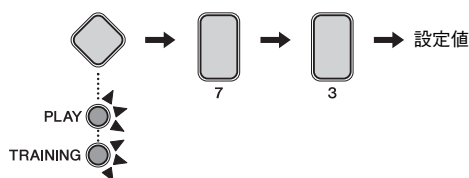
1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [7] を押して“その他設定”を選びます。
3. 数字キー [2] を押して“パネル操作音の音量”を選びます。
4. 設定値(パネル操作音の音量)を、数字キー [1]～[10]で入力します。

設定値
1～10

NOTE 設定値が1のときは、ボタン操作音が鳴りません。

7-3. USBオーディオの出力設定

手順：
モードスイッチを長押し → [7] → [3] → 設定値



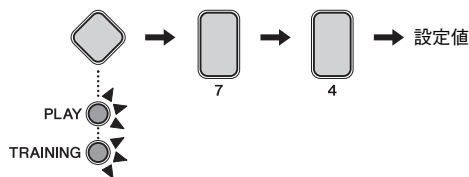
USBオーディオ入力を、USB出力するかどうかを設定します。「出力する」を選ばと、たとえばPCからインプットされたオーディオデータは、パッドによる演奏とミックスされて、USB OUTと一緒に送られます。「出力しない」を選ばと、パッドによる演奏だけがUSB OUTに送られます。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [7] を押して “その他設定” を選びます。
3. 数字キー [3] を押して “USBオーディオの出力設定” を選びます。
4. 設定値を、数字キー [1]～[2] の中から1つ選んで押します。

数字キー	設定値
[1]	出力しない
[2]	出力する

7-4. USBオーディオの出力ゲイン

手順：
モードスイッチを長押し → [7] → [4] → 設定値



USBオーディオをUSBで出力するときの出力ゲインを設定します。

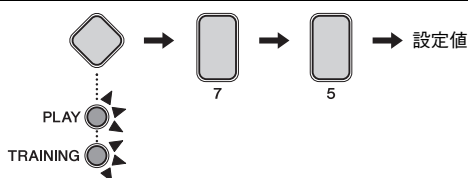
1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [7] を押して “その他設定” を選びます。
3. 数字キー [4] を押して “USBオーディオの出力ゲイン” を選びます。

4. 設定値を、数字キー [1]～[5] の中から1つ選んで押します。

数字キー	設定値
[1]	-12dB
[2]	-6dB
[3]	0dB
[4]	+6dB
[5]	+12dB

7-5. オートパワーオフ時間

手順：
モードスイッチを長押し → [7] → [5] → 設定値



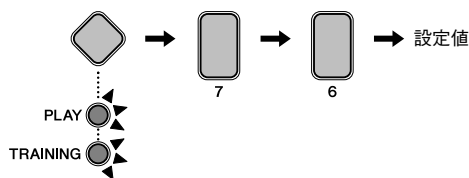
オートパワーオフ(22ページ)するまでの時間を設定したり、オートパワーオフをしない設定ができます。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [7] を押して “その他設定” を選びます。
3. 数字キー [5] を押して “オートパワーオフ時間” を選びます。
4. 設定値を、数字キー [1]～[7] の中から1つ選んで押します。

数字キー	設定値
[1]	オートパワーオフをしない
[2]	5分
[3]	10分
[4]	15分 (初期設定)
[5]	30分
[6]	60分
[7]	120分

7-6. ステレオ/モノラル

手順：
モードスイッチを長押し → [7] → [6] → 設定値



[PHONES/OUTPUT] 端子からの出力を、ステレオ出力/モノラル出力に切り替えることができます。たとえば、この端子に標準モノラルフォーンケーブルを使って外部スピーカーやミキサーなどと接続する場合は、モノラルに設定することをおすすめします。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [7] を押して“その他設定”を選びます。
3. 数字キー [6] を押して“ステレオ/モノラル”を選びます。
4. 設定値を、数字キー [1]～[2]の中から1つ選んで押します。

数字キー	設定値
[1]	ステレオ
[2]	モノラル

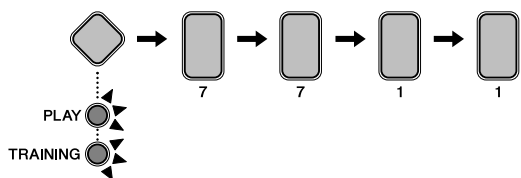
7-7. キットの初期化

特定の音楽ジャンルに使われているドラムキット(キット)を購入時の状態に戻すことができます。

【注 記】 キットの初期化を実行すると、キットの元の内容は消去されます。よく確認してから実行してください。

1. モードスイッチを押して、「PLAY」を点灯させます。
2. 数字キー [1]～[10]で、初期化したい音楽ジャンルのドラムキットを選びます。

手順：
モードスイッチを長押し → [7] → [7] → [1] → [1]



3. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
4. 数字キー [7] を押して“その他設定”を選びます。

5. 数字キー [7] を押して“キットの初期化”を選びます。

- ・数字キー [1] が点灯します。

6. 数字キー [1] を押します。

- ・数字キー [1] が点滅します。

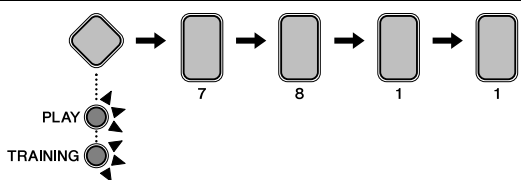
- ・初期化をやめたいときは、モードスイッチを押して、メニューモードから抜けます。

7. 数字キー [1] を押します。

- ・初期化が実行されます。

7-8. ソングの削除

手順：
モードスイッチを長押し → [7] → [8] → [1] → [1]

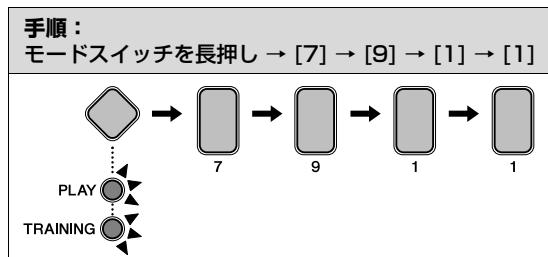


インポートしたMIDIソングを本体から削除します。

【注 記】 削除を実行すると、復元できません。よく確認してから実行してください。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [7] を押して“その他設定”を選びます。
3. 数字キー [8] を押して“ソングの削除”を選びます。
 - ・数字キー [1] が点灯します。
4. 数字キー [1] を押します。
 - ・数字キー [1] が点滅します。
 - ・削除をやめたいときは、モードスイッチを押して、メニューモードから抜けます。
5. 数字キー [1] を押します。
 - ・削除が実行されます。

7-9. 電源オン時の状態に復元

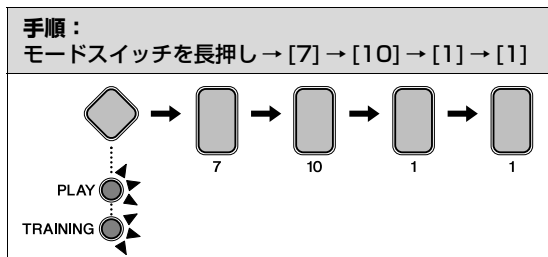


すべてのデータ(音楽ジャンルのドラムキット、ソング、メニュー)を電源オン時の設定に戻します。

- 【注 記】**
- ・電源オン時の状態に復元を実行すると、電源を入れてから設定した内容は消去されます。よく確認してから実行してください。
 - ・ソングのインポートや削除の後に設定を変更し、その後「電源オン時の状態に復元」を行なった場合には、電源オン時の状態には戻りません。ソングのインポート後または削除後の状態に戻ります。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [7] を押して“その他設定”を選びます。
3. 数字キー [9] を押して“電源オン時の状態に復元”を選びます。
 - ・数字キー [1] が点灯します。
4. 数字キー [1] を押します。
 - ・数字キー [1] が点滅します。
 - ・初期化をやめたいときは、モードスイッチを押してメニューモードから抜けます。
5. 数字キー [1] を押します。
 - ・初期化が実行されます。

7-10. ファクトリーリセット



すべてのデータ(音楽ジャンルのドラムキット、ソング、メニュー)を初期の状態(工場出荷時)の設定に戻します。

- 【注 記】** ファクトリーリセットを実行すると、設定したすべての内容は消去されます。よく確認してから実行してください。

1. モードスイッチを長押しして、メニューモードに入ります。
2. 数字キー [7] を押して“その他設定”を選びます。
3. 数字キー [10] を押して“ファクトリーリセット”を選びます。
 - ・数字キー [1] が点灯します。
4. 数字キー [1] を押します。
 - ・数字キー [1] が点滅します。
 - ・初期化をやめたいときは、モードスイッチを押してメニューモードから抜けます。
5. 数字キー [1] を押します。
 - ・初期化が実行されます。

ファクトリーリセットはVOLUME[+]ボタンとVOLUME[-]ボタンを押しながら電源を入れても行なえます(22ページ)。

別売品を取り付ける

別売品を本体に接続して楽しむ方法をご紹介します。

ここで説明する別売品は、本書制作時点での最新品番です。その後発売された最新品番については、下記のウェブサイトでご確認ください。

<https://www.yamaha.com/dtx/>

DTX402Kの場合

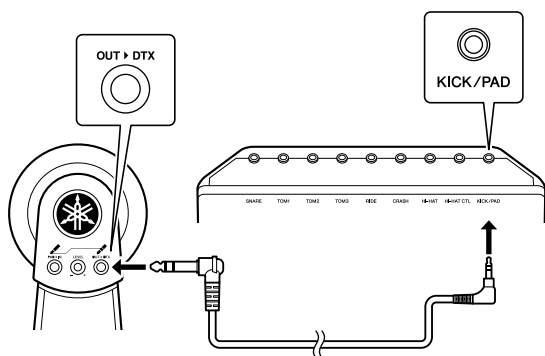
DTX402Kに付属のキックユニットKU100やハイハットコントローラーをグレードアップすることで、より生ドラムに近い打感で演奏を楽しめます。

KU100をKP65にグレードアップするには、フットペダルを別途ご用意していただく必要があります。

KP65をお使いの場合は、シンバルパッドPCY95ATなどを増設できます。(「DTX432KおよびDTX452Kの場合」の「シンバルパッドPCY95AT(別売品)を増設する」を参照)

■キックユニットKU100をキックパッドKP65(別売品)にグレードアップする

1. KP65を組み立てます。組み立て方法は18ページの手順11をご覧ください。
2. 本体の電源を切ります。
接続する前に、本体の電源が切れていることを確認してください。
3. KU100につながれていたプラグをKP65に差し換えます。プラグはKP65の裏側にある OUT ▶ DTX と書かれたジャックに接続します。



4. 本体の電源を入れます。
5. キックをKP65に設定します。メニューモードの“ペダルの種類”(50ページ)でキックをKP65に設定してください。
6. KP65を踏んで演奏します。

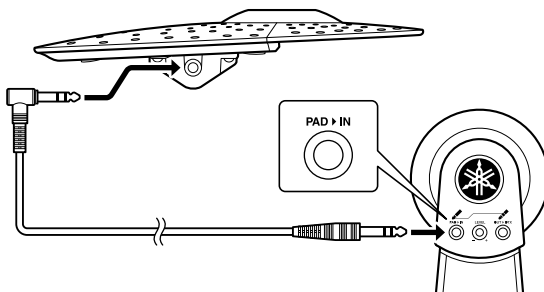
■ハイハットコントローラーをHH65(別売品)にグレードアップする

1. 本体の電源を切ります。
接続する前に、本体の電源が切れていることを確認してください。
2. 本体のハイハットコントローラーにつながれていたプラグをHH65のOUTPUT端子に差し換えます。
3. 本体の電源を入れます。
4. ハイハットコントローラーをHH65に設定します。
メニューモードの“ペダルの種類”(50ページ)でハイハットコントローラーをHH65に設定してください。
5. HH65を踏んで演奏します。

DTX432KおよびDTX452Kの場合

■シンバルパッドPCY95AT(別売品)を増設する

1. 本体の電源を切ります。
接続する前に、本体の電源が切れていることを確認してください。
2. PCY95ATに付属のケーブルを用いて、シンバルパッドをキックパッドKP65のPAD ▶ INと書かれたジャックに接続します。

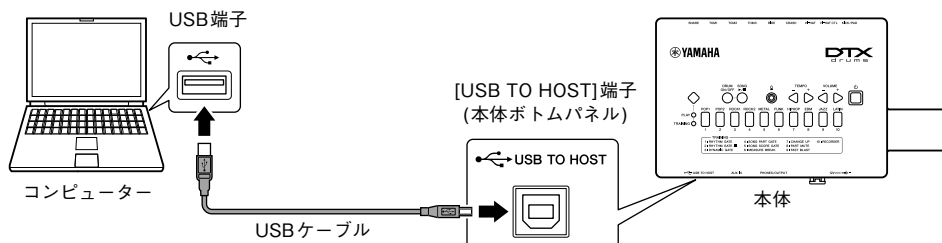


3. 本体の電源を入れます。
4. 増設したシンバルパッドを叩いて演奏します。

コンピューターに接続する

本体とコンピューターやiPhone、iPadなどのスマートデバイスをUSBケーブルで接続すると、オーディオデータやMIDIデータの送受信ができます。ここでは、本体とコンピューターの接続方法について説明します。

NOTE USBケーブルは付属していません。



■ [USB TO HOST] 端子ご使用時の注意

[USB TO HOST] 端子でコンピューターと接続するときは、以下のことを行なってください。以下のことを行わないと、コンピューターや本機が停止（ハングアップ）して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。

コンピューターや本機が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動したり、本機の電源を入れ直したりしてください。

- 注記**
- USBケーブルは、ABタイプのものをご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用できません。
 - [USB TO HOST] 端子でコンピューターと接続する前に、コンピューターの省電力（サスペンド/スリープ/スタンバイ/休止）モードを解除してください。
 - 本機の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しをする前に、すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - 本機の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行ってください。

Yamaha Steinberg USB Driverをインストールする

Windowsのコンピューターでオーディオデータを扱いたい場合には、Yamaha Steinberg USB Driverのインストールが必要です。

NOTE macOSのコンピューターをお使いの場合や、WindowsのコンピューターでMIDIデータのみを扱いたい場合には、Yamaha Steinberg USB Driverのインストールは必要ありません。

1. 以下のURLから、最新のYamaha Steinberg USB Driverをダウンロードします。

<https://jp.yamaha.com/support/>

「ソフトウェア」から検索

[↓ (ドライバー名)] ボタンを押してダウンロードし、ファイルを開きます。

- NOTE**
- 動作環境については、上記URLをご確認ください。
 - Yamaha Steinberg USB Driverは、改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。詳細および最新情報については、上記URLをご確認ください。

2. Yamaha Steinberg USB Driverをコンピューターにインストールします。
詳しくはYamaha Steinberg USB Driver インストールガイドをご参照ください。

MIDIリファレンスマニュアルについて

コンピューターを使って音楽制作をするときに必要なMIDIに関する情報は、MIDIリファレンスマニュアル (PDF) をご覧ください。

下記URLからダウンロードできます。

<https://jp.yamaha.com/support/>

困ったときは

多くのトラブルは、本体の設定を初期の状態に戻す(ファクトリーリセット)することで解決できる場合があります。以下の方法を試しても解決できない場合は、ファクトリーリセットをお試しください。(詳しくは22ページ)

パッドを叩いても音が鳴らない、または音量が小さい

■ 正しく接続されていますか？

- ・パッドが正しく本体のトリガー入力端子に接続されていますか？
- ・ヘッドフォンやアンプ/スピーカーなどの外部機器がPHONES/OUTPUT端子に正しく接続されているか確認してください。(AUX IN端子ではありません。)
- ・本体に接続しているアンプ/スピーカーの電源は入っていますか？またボリュームは下がっていませんか？
- ・KP65をお使いの場合は、KP65のLEVELツマミを調節してください。
- ・使用しているケーブルが不良ではないか確認してください。断線していたら交換してください。
- ・ **DTX402Kのみ**
HH40とKU100のケーブルを逆に差していないですか？(57ページ)

■ 本体の設定は正しいですか？

- ・本体の音量が下がっていませんか？また、音量を数字キーで入力する場合、ゆっくり入力すると、3桁の数値が1桁や2桁に認識されることがあります。少し早めに入力してください。(41ページ)
- ・メニューモードの以下の項目を設定し直してください。
 - 各パッドの音量 (43ページ)
 - ゲイン (50ページ)
 - パッドのベロシティカーブ (48ページ)
 - クロストーク (49ページ)
 - スネアパッドの種類 (49ページ)
 - ペダルの種類 (50ページ)
 - ローカルコントロール (45ページ)

■ キック音が鳴らない、または音が小さい

- ・お使いのヘッドフォンによっては、低音がきこえづらいことがあります。別のヘッドフォンでお試しください。
- ・ **DTX402Kのみ**
KU100をお使いの場合には、電源を入れる前にHH40を接続してください。また電源オン時は、HH40を踏まないでください。ペダルの自動判別がうまく作動せずに、キックの音が出にくくなる場合があります。

■ ハイハットのフットクローズ音が鳴らない

- ・ハイハットコントローラーをしっかりと踏み込んでください。
- ・メニューモードの“ツーバス”をオフにしてください。(44ページ)
- ・HH65をお使いの場合は、メニューモードの“フットクローズの位置”の値を小さくしてください。(46ページ)

意図しない音や音量で発音される

■ ハイハットスブラッシュの音がうまく出ない

- ・メニューモードの“ハイハットスブラッシュの感度”の値を調節してください。(46ページ)

■ ハイハットがクローズしにくい

- ・HH65をお使いの場合は、メニューモードの“フットクローズの位置”の値を調節してください。(46ページ)

■ ハイハットのフットクローズ音に強弱がつかない

- ・メニューモードの“ペダルの種類”を設定し直してください。(50ページ)

・ DTX402Kのみ

HH40はフットクローズ音に強弱がつきません。お好みの音量(ペロシティー)に設定するにはメニューモードの“フットクローズのペロシティー”の値を調節してください。(47ページ)

■ 大きな音しか鳴らない(ペロシティーが常に大きい)

- ・キットの感度を調節してください。(26ページ)
- ・メニューモードの“ゲイン”の値が大きすぎると大きな音が鳴ります。(50ページ)
- ・メニューモードの“パッドのペロシティーカーブ”の値を調節してください。(48ページ)
- ・ヤマハ以外のパッドを使用していませんか？メーカーによっては出力が大きいものがあります。

■ それぞれのパッドから鳴る音の音量バランスが悪い

- ・メニューモードの“各パッドの音量”の値を調節してください。(43ページ)
- ・メニューモードの“ステレオ/モノラル”を設定し直してください。(55ページ)

■ [AUX IN] 端子に接続された音楽プレーヤーなどと本体の音量バランスが悪い

- ・音楽プレーヤーなどの音量が適切かどうか確認してください。(21ページ)

■ ソングと自分が叩くドラムの音量バランスが悪い

- ・ソングの音量を調節してください。(27ページ)

パッドを叩いたときに二度鳴りする/叩いていないパッドの音が鳴る/音抜けする

■ ダブルトリガー(二度鳴り)を起こす

- ・パッドやトリガーに出力や感度コントロールボリュームなどがある場合は、(下げる方向で)調節してください。
- ・スネアのパッドタイプが正しく割り当てられているか確認してください。(49ページ)
- ・メニューモードの“ゲイン”の値が大きすぎないか確認してください。(50ページ)

■ クロストーク(叩いたパッド以外のパッドが発音してしまう)を起こす


- ・メニューモードの以下の項目を設定し直してください。
 - ゲイン (50ページ)
 - 最小レベル (50ページ)
 - クロストーク (49ページ)

■ 音抜け(ときどき音が鳴らない)を起こす

- ・メニューモードの“クロストーク”を適切な値に設定してください。(49ページ)

その他

■ 本体の設定が保存されない

- ・本体の電源を切るときにアダプターを抜いていませんか？本体の設定を正しく保存するために、必ず[

■ 本体の設定を購入時の状態に戻したい

- ・ファクトリーリセット(初期化)を行なってください。(22ページ)

■ 本体の設定を電源投入時の状態に戻したい

- ・メニューモードの“電源オン時の状態に復元”を行なってください。(56ページ)

■ 1キットだけ購入時の状態に戻したい

- ・メニューモードの“キットの初期化”を行なってください。(55ページ)

■ 途中で電源が切れてしまう

- ・自動電源オフ(オートパワーオフ)を無効にしてください。(22ページ)

■ ボイスナビゲーション/操作音を消したい

- ・メニューモードの“ボイスナビゲーションの音量”の値を[1]にしてください。(53ページ)
- ・メニューモードの“パネル操作音の音量”の値を[1]にしてください。(53ページ)

■ クラッシュシンバルのチョーク機能がきかない

- ・ライドシンバルと間違えて取り付けていないか確認してください。クラッシュシンバルには、センサーがついています。(17ページ)

* お困りの際は、MIDIリファレンスマニュアル(PDF)も併せてご覧ください。(58ページ)

* ヤマハウェブサイト「よくあるお問い合わせ(Q&A)」(<https://jp.yamaha.com/support/>)もご確認ください。

データリスト

■音楽ジャンルリスト

番号	音楽ジャンル名	ソングの解説	キットの解説
1	POP1	8ビートのポップスです。	ポップスの演奏に適したオールマイティーなキットです。
2	POP2	16ビートのポップスです。	ゲートリバーブの掛かったドラム音を再現したキットです。
3	ROCK1	8ビートのロックです。	ロックの演奏に適した迫力のあるキットです。
4	ROCK2	ハネたリズムのロックです。	ROCK1とはキャラクターが違う、ロックの演奏に適したキットです。
5	METAL	ツーバスのメタルです。	ハイハットコントローラーにバスドラムの音が割り当てられているキットで、ツーバスの演奏が楽しめます。
6	FUNK	アップテンポなファンクです。	ハイピッチなスネアが特徴的なキットです。
7	HIPHOP	近代的なヒップホップです。	近代的なヒップホップでよく使われる音色のキットです。
8	EDM	EDM(エレクトロニック・ダンス・ミュージック)です。	EDMでよく使われるエレクトリックな音色のキットです。
9	JAZZ	4ビートのジャズです。	ジャズの演奏に適した小口径のキットです。
10	LATIN	ラテン音楽の一つであるサルサです。	パーカッション音色が楽しめるキットです。

■ボイスリスト

Kick	Snare	Tom	Cymbal
1 MapleC 22	31 MapleCustm	71 MapleC H	113 DarkRd20-1
2 Big Gate	32 Big Gate	72 MapleC M	114 DarkRd20-2
3 Rock	33 Rock	73 MapleC L	115 VtgRd 22
4 Vtg50s 22	34 Vintage50s	74 Big Gate H	116 WarmRd 20
5 Vtg70s 24	35 Vintage70s	75 Big Gate M	117 JazzRd 22
6 Metal	36 Metal	76 Big Gate L	118 SzRide 20
7 BirchC 22	37 BirchCustm	77 Rock H	119 Brilliant16
8 Jazz	38 Jazz	78 Rock M	120 Brilliant18
9 HipHop 1	39 HipHop 1	79 Rock L	121 Vivid 17
10 HipHop 2	40 HipHop 2	80 Vintg50s H	122 Bright 18
11 HipHop 3	41 EDM	81 Vintg50s M	123 Dark 18
12 HipHop 4	42 T8	82 Vintg50s L	124 Vintage 16
13 HipHop 5	43 T9	83 Vintg70s H	125 Vintage 18
14 HipHop 6	44 Analog	84 Vintg70s M	126 Jazz 18
15 HipHop 7	45 Gate 1	85 Vintg70s L	127 SzCrash 20
16 HipHop 8	46 Gate 2	86 Metal H	128 Splash 1
17 HipHop 9	47 Gate 3	87 Metal M	129 Splash 2
18 EDM	48 Electro 1	88 Metal L	130 China
19 T8-1	49 Electro 2	89 BirchC H	131 Trash
20 T8-2	50 Electro 3	90 BirchC M	132 ElecRide 1
21 T8-3	51 Electro 4	91 BirchC L	133 ElecRide 2
22 T8-4	52 Break	92 Jazz H	134 ElecRide 3
23 T9-1	53 DNB	93 Jazz M	135 ElecShaker
24 T9-2	54 Clap 1	94 Jazz L	136 T8 Ride
25 T9 Hard	55 Clap 2	95 Gate H	137 T9 Ride
26 ElecComp	56 Clap 3	96 Gate M	138 ElecCym 1
27 Break 1	57 Clap 4	97 Gate L	139 ElecCym 2
28 Break 2	58 Clap 5	98 Electro H	140 ElecCym 3
29 DNB 1	59 Clap 6	99 Electro M	141 ElecCym 4
30 DNB 2	60 Clap 7	100 Electro L	142 T8 Crash
	61 Clap 8	101 T8-1 H	143 T9 Crash
	62 Clap 9	102 T8-1 M	144 SynCrash 1
	63 Clap 10	103 T8-1 L	145 SynCrash 2
	64 Clap 11	104 T8-2 H	146 HipHopCr 1
	65 Clap 12	105 T8-2 M	147 HipHopCr 2
	66 Clap 13	106 T8-2 L	148 HipHopCr 3
	67 Clap 14	107 T9-1 H	149 HipHopCr 4
	68 Snap 1	108 T9-1 M	150 HipHopCr 5
	69 Snap 2	109 T9-1 L	151 RevCym 1
	70 Snap 3	110 Syn H	152 RevCym 2
		111 Syn M	
		112 Syn L	

Hi-Hat

153 Brilliant14
 154 Dark 14
 155 Vintage 14
 156 Bright 14
 157 Jazz 14
 158 R&B 1
 159 R&B 2
 160 Electro 1
 161 Electro 2
 162 Electro 3
 163 Electro 4
 164 T8
 165 T9
 166 HipHop 1
 167 HipHop 2
 168 DNB

Percussion

169 Cajon Mt
 170 Cajon Slp
 171 Cajon Lo
 172 Cajon Ft
 173 PndeiroTap
 174 PndeiroOp
 175 PndeiroShk
 176 PndeiroSld
 177 Claves
 178 Conga H Sw
 179 Conga L Sw
 180 BongoH Sw
 181 BongoL Sw
 182 Cowbell1Sw
 183 Cowbell 2
 184 Cowbell 3
 185 Shaker Op
 186 Shaker Cl
 187 Timbales H
 188 Timbales L
 189 Vibraslap
 190 Surdo Sw
 191 Tambarin 1
 192 Tambarin 2
 193 Maracas
 194 TriangleOp
 195 TriangleMt
 196 GuiroShort
 197 GuiroLong
 198 Agogo H
 199 Agogo L
 200 WoodBlockH
 201 WoodBlockL
 202 Caxixi Hit
 203 Whistle S
 204 Whistle L
 205 Djambe Lo
 206 Djambe Op
 207 Djambe Slp
 208 Djambe Mt
 209 TalkDr Op
 210 PotDrum Op
 211 Dundun Op
 212 Dundun Cl
 213 Darbuka Op
 214 Darbuka Sl
 215 Darbuka Mt
 216 Sangban Op
 217 Kenkeni Op
 218 AfricanBIH
 219 AfricanBIL
 220 Tombak Op

221 Daf Open
 222 Daf Slap
 223 Daf Mute
 224 Riq Open
 225 Riq Slap
 226 Riq Shake
 227 Riq Hit
 228 Sagat Op
 229 Sagat Cl
 230 Sagat Sw
 231 Tabla Na
 232 Bayan Ge
 233 Dhol RH Op
 234 Dhol RH Cl
 235 Dhol LH Op
 236 Dhol LH Cl
 237 KanjiraHit
 238 KanjiraSlp
 239 KanjiraShk
 240 ZangGu
 241 ZangGu Rim
 242 BianGu
 243 BianGu Rim
 244 BianGuHand
 245 TangGu
 246 TangGu Rim
 247 PaiGu 1
 248 PaiGu 2
 249 PaiGu 3
 250 XiaoBo Opn
 251 XiaoBo Cls
 252 DaBo Opn
 253 DaBo Cls
 254 XiaoLuo
 255 ZhongLuo
 256 FengLuo
 257 ShangNao 1
 258 ShangNao 2
 259 Qing H
 260 Qing L
 261 Taiko Don
 262 Taiko Ka
 263 KoTaik1Ten
 264 KoTaik1Tsu
 265 KoTaik2Ten
 266 KoTaik2Tsu
 267 TsuzumiPon
 268 TsuzumiBnd
 269 OokawaChon
 270 Temple Blk
 271 KontikiKon
 272 Kontiki Ki

273 Atari Kon
 274 Atari Chi
 275 Ainote 1
 276 Ainote 2
 277 GranCasaOp
 278 Castanet
 279 SleighBel
 280 WindChime
 281 HandCym Op
 282 HandCym Mt
 283 FingrCymOp
 284 RibonCrash
 285 Timpani
 286 Tamtam
 287 Latin HH

仕様

■音源モジュール

音源部	音源方式	AWM2
	最大同時発音数	64音
	音色数	ドラム/パーカッション：287音色 キーボード：128音色
	ドラムキット数	10キット(すべて編集/上書き保存可能)
	ソング数	10ソング
	リバーブ	9タイプ
メトロノーム	テンポ	30～300 (タップテンポ機能、音声ガイド機能)
	ビート	1/4～9/4
その他	接続端子	SNARE (ステレオミニフォン端子) TOM1 (モノラルミニフォン端子) TOM2 (モノラルミニフォン端子) TOM3 (モノラルミニフォン端子) RIDE (モノラルミニフォン端子) CRASH (ステレオミニフォン端子) HI-HAT (モノラルミニフォン端子) HI-HAT CTL (ステレオミニフォン端子) KICK/PAD (ステレオミニフォン端子) USB TO HOST (タイプB端子) AUX IN (ステレオミニフォン端子) PHONES/OUTPUT (ステレオ標準フォン端子) DC IN
	消費電力	5W
	電源アダプター	PA-3Cまたは同等のヤマハ推奨品
	寸法、質量	269(W)×147(D)×39(H)mm、0.5kg

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

索引

Symbols

[12V  +  -]端子	24
[](クリック)ボタン	23
[](スタンバイ/オン)スイッチ	23
[ /■](スタート/ストップ)ボタン	23
[AUX IN](外部入力)端子	24
[DRUM ON/OFF] (ドラムオン/オフ)ボタン	23
[PHONES/OUTPUT]端子	24
[TEMPO](テンポ)ボタン	23
[USB TO HOST]端子	24, 58
[VOLUME](ボリューム)ボタン	23

数字

9ch マルチケーブル	9, 10, 11
-------------------	-----------

F

FP6110A	10, 11
---------------	--------

H

HH40	9, 25
HH65	10, 11, 25, 57
HI-HAT CTL (ハイハットコントロール)端子	24

K

KICK/PAD端子	24
KP65	10, 11, 57
KU100	9

M

MIDI設定	45
MIDIリファレンス	7, 58

P

PCY95AT	57
---------------	----

T

TP70S	11, 25
-------------	--------

Y

Yamaha Steinberg USB Driver	58
-----------------------------------	----

ウ

ウイングボルトS	11
----------------	----

オ

オートパワーオフ	22
オープン	25
オープンリムショット	25
音楽ジャンルリスト	62
音源モジュール	9, 10, 11, 23
音色	26
音声ガイド	29
音量	21

カ

感度	26
----------	----

キ

キックユニット	9, 57
キット	26

ク

クラッシュシンバルパッド	9, 10, 11
クリック	29
クローズ	25
クローズドリムショット	25
クロススティック	25
クロストーク	49

ケ

ケーブルバンド	9, 10, 11, 20
携帯用音楽プレーヤー	21
ゲイン	50

コ

コードフック	21
コンピューター	58

サ

採点	31
----------	----

シ

シンバル/ハイハットパッド	9, 10, 11
シンバルホルダー	9, 10, 11

ス

数字キー	23
スネアパッド	11, 25
スピーカー	21

ソ

ソング	27
ソングスコアゲート	35
ソングの削除	55
ソングパートゲート	34

タ

ダイナミックゲート	33
タップテンポ	30
タム	13

チ

チェンジアップ	37
チューニングキー	9, 10, 11
チョーク	25

ツ

ツープラス	44
-------------	----

テ

電源アダプター	9, 10, 11, 21
電源オン時の状態に復元	56
テンポ	29

ト

トップパネル	24
ドラム譜	7
トリガー入力端子	24
トレーニングモード	23, 31

ナ

難易度	51
-----------	----

ハ

パートミュート	38
ハイハットコントローラー	9, 10, 11
ハイハットスブラッシュ	25
ハイハットホルダー	9, 10, 11
パターン	42

ヒ

拍子	42
----------	----

フ

ファクトリーリセット	22, 56
ファストブラスト	39
フットクローズ	25
プレイモード	23, 26
フロントパネル	23

ヘ

ヘッドショット	25
ヘッドフォン	21
別売品	57

ホ

ボイスナビゲーション	29, 53
ボイスリスト	62
ボトムパネル	24

ミ

ミュート	28
------------	----

メ

メジャーブレイク	36
メトロノーム	29
メニューモード	23, 41

モ

モードスイッチ	23
---------------	----

リ

リズムゲート	32
リム	25

レ

レコーダー	40
-------------	----

保証とアフターサービス

サービスのご依頼やお問い合わせは、お買い上げの販売店、またはこの取扱説明書（以下本書）に記載の修理ご相談センターにご連絡ください。

本書は、保証書の役割を兼ねています。購入を証明する書類（領収書や納品書など、製品名、品番、お買い上げ日、販売店名が記載されたもの）とあわせて、大切に保管してください。保証期間内に万一本製品が故障した場合には、購入を証明する書類をご提示のうえ、お買い上げの販売店にご依頼ください。下記の保証規定に基づいて無料修理を行うことをお約束します。

[持込修理]

保証書				
製品名		品番		製造番号
お買い上げ日	年 月 日			
保証期間	(お買い上げ日から) 本体 / 電源アダプター: 1 年間			
販売店名				

保証規定	
保証期間中、正常なご使用状態のもとで万一発生した故障につきましては、本保証規定に基づき無料修理いたします。	
<p>■ 保証期間中でも以下の場合は有料となります。</p> <ul style="list-style-type: none">購入を証明する書類（領収書や納品書など、製品名、品番、お買い上げ日、販売店名が記載されたもの）のご提示がない場合納品後、輸送や修理時の取り扱いが適当でないために生じた故障の場合提供されている各説明書や本規定に記載の注意事項に反する取り扱いによって発生した故障の場合故障の原因が本製品以外の機器にある場合塗装面および金属面が経年変化により退色、変色した場合弊社認定の修理サービス技術者以外の者が修理 / 改造した部分で、その修理 / 改造が不適当であった場合火災、地震、水害、落雷、その他の天災および公害や電圧異常による故障の場合鼠害、塩害などによる故障、損傷の場合持込修理対象の品番でお客様のご要望により出張修理を行う場合の出張料金	<p>■ 転居・譲渡などを伴う場合、その他注意事項</p> <ul style="list-style-type: none">転居、ご贈答品などで、お買い上げの販売店に修理をご依頼できない場合には、修理ご相談センターにご相談ください。離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行う場合の交通費は実費を申し受けます。保証期間内に、本製品を他人に譲渡あるいは転売された場合でも、残存期間は保証いたします。本保証内容は、日本国内においてのみ有効です。 (This warranty is valid only within Japan.)
この保証内容は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。本規定によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または修理ご相談センターにお問い合わせください。	

● 保証期間経過後の修理

修理が可能な場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間或使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げの販売店、または修理ご相談センターにご相談ください。

有寿命部品の例：ポリウムコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造終了後8年です。

● 修理のご依頼

本製品に異常が見られた場合は、まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、本製品の状態をお調べください。それでも改善しないときは、お買い上げの販売店、または修理ご相談センターにご連絡ください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、品番などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

販売元: 株式会社ヤマハミュージックジャパン LM事業戦略部

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい5丁目1番2号 横浜シンフォステージ ウェストタワー

* 名称、住所は変更になる場合があります。

修理に関するお問い合わせ

お買い上げの販売店または下記の修理ご相談センターへご連絡ください。

※修理をご依頼いただくときは、製品名、品番などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆ 修理ご相談センター



0120-149-808

携帯電話、
IP電話からは

050-3852-4106

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(祝日、センター指定休日を除く)

FAX

- 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海): 03-5762-2125
- 西日本(北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄): 06-6649-9340

◆ 修理品お持込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(祝日、センター指定休日を除く)

※お電話は、修理ご相談センターでお受けします。

● 東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 JMT京浜E棟A-5F
FAX 03-5762-2125

● 西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17 ナンバ辻本ビル7F
FAX 06-6649-9340

製品の仕様や取り扱いに関するお問い合わせ

お買い上げの販売店または下記のお客様コミュニケーションセンターへご連絡ください。

◆ お客様コミュニケーションセンター ギタードラムご相談窓口



0120-143-808

携帯電話、
IP電話からは

050-3852-4093

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日、センター指定休日を除く)

ヤマハ サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>



ヤマハ楽器音響製品お客様サポート
LINE公式アカウント



ヤマハ 電子ドラムサイト
<https://jp.yamaha.com/dtx/>

◆ 付属DAW ソフトウェアについて

Steinberg 社のホームページをご覧ください。Steinberg 社のホームページでは、製品に関するサポート情報や、最新アップデートのダウンロード、FAQ など下記 URL にて公開しております。

<https://www.steinberg.net/ja/>

付属 DAW ソフトウェアの [ヘルプ (Help)] メニューから Steinberg 社のホームページにアクセスできます (ヘルプメニューには、付属 DAW ソフトウェアの PDF マニュアルや追加情報なども掲載されています)

製品登録のご案内

ヤマハミュージックメンバーズでは、お客様がお持ちのヤマハ製品をより長くご愛用いただくために、製品登録をおすすめしています。ご登録いただくことで、お客様に合う製品やキャンペーン、イベントなどの情報を Web サイトやメールニュースでお届けします。



<https://4wrd.it/MEMBER-JP>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町10-1

*都合により、住所、電話番号、名称、営業時間など変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

ヤマハ電子ドラム製品ウェブサイト
<https://jp.yamaha.com/dtx/>

ヤマハダウンロード
<https://jp.yamaha.com/support/>

©2018 Yamaha Corporation
2025年7月 発行
IPMA-D0

VHY8300